



令和 6 年度

第 1 回 南長浜地域まちづくり検討会議

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. あいさつ | 5 分 |
| 2. 委員自己紹介 | 1 5 分 |
| 3. 南長浜地域まちづくり検討事業について | 4 0 分 |
| 4. 検討会議の進め方 | 2 0 分 |
| a. 検討体制 | |
| b. 年間スケジュール／令和 6 年度ゴール | |
| c. 検討の手法 | |
| 5. その他 | 1 0 分 |
| a. 南ながはま共創パートナー企業の募集について | |
| b. 第2回 検討会議について | |
- 





市長の浅見宣義は6月定例議会本議会中につき、
長浜市未来創造部次長 村崎より挨拶申し上げます。





委員名簿の順にお呼びしますので、自己紹介をお願いします。

- ・ お名前
- ・ おしごと、専門分野
- ・ 長浜市とのご縁（えん）

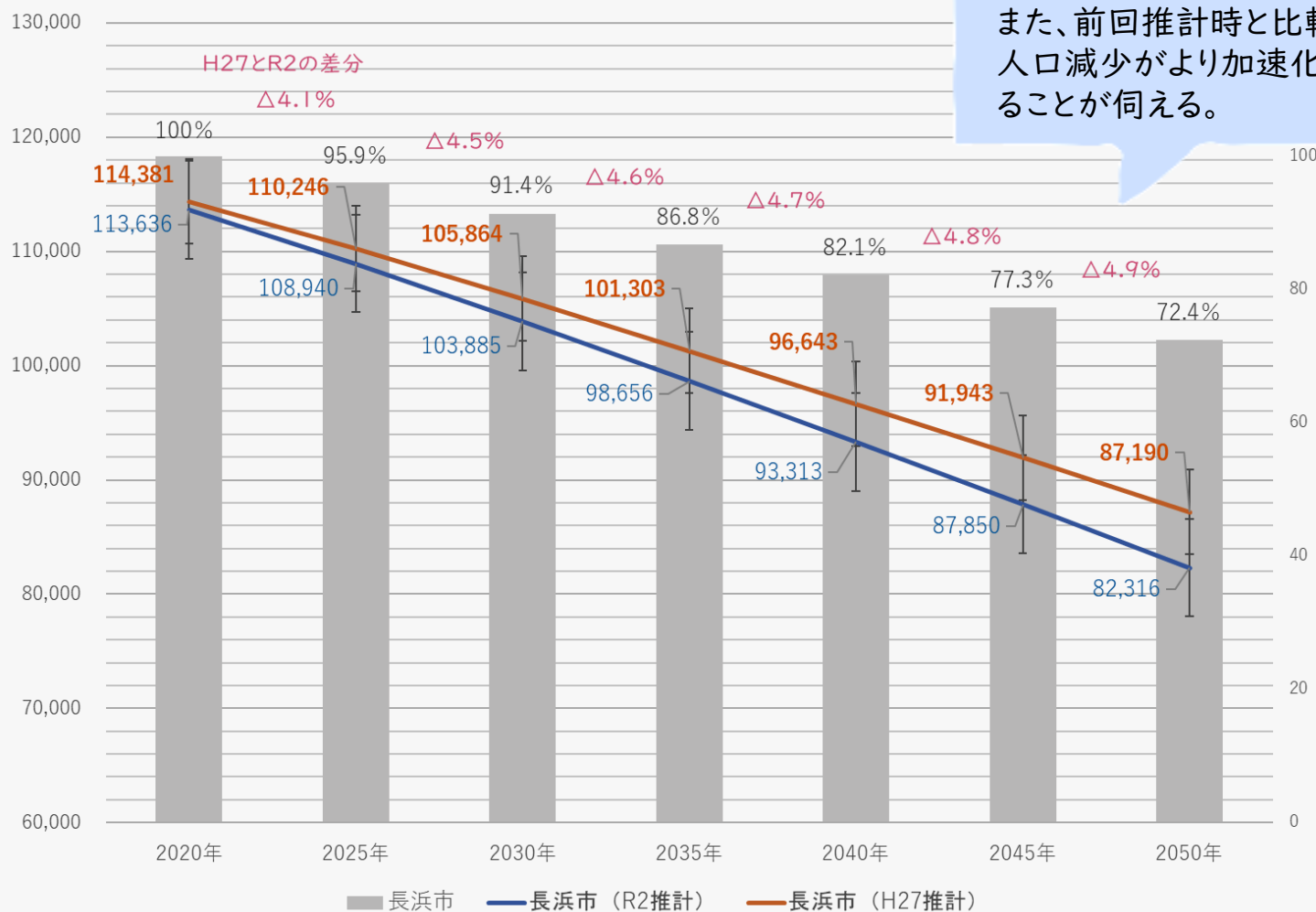


3. 南長浜地域まちづくりについて



長浜市の将来人口推計

総人口の推計

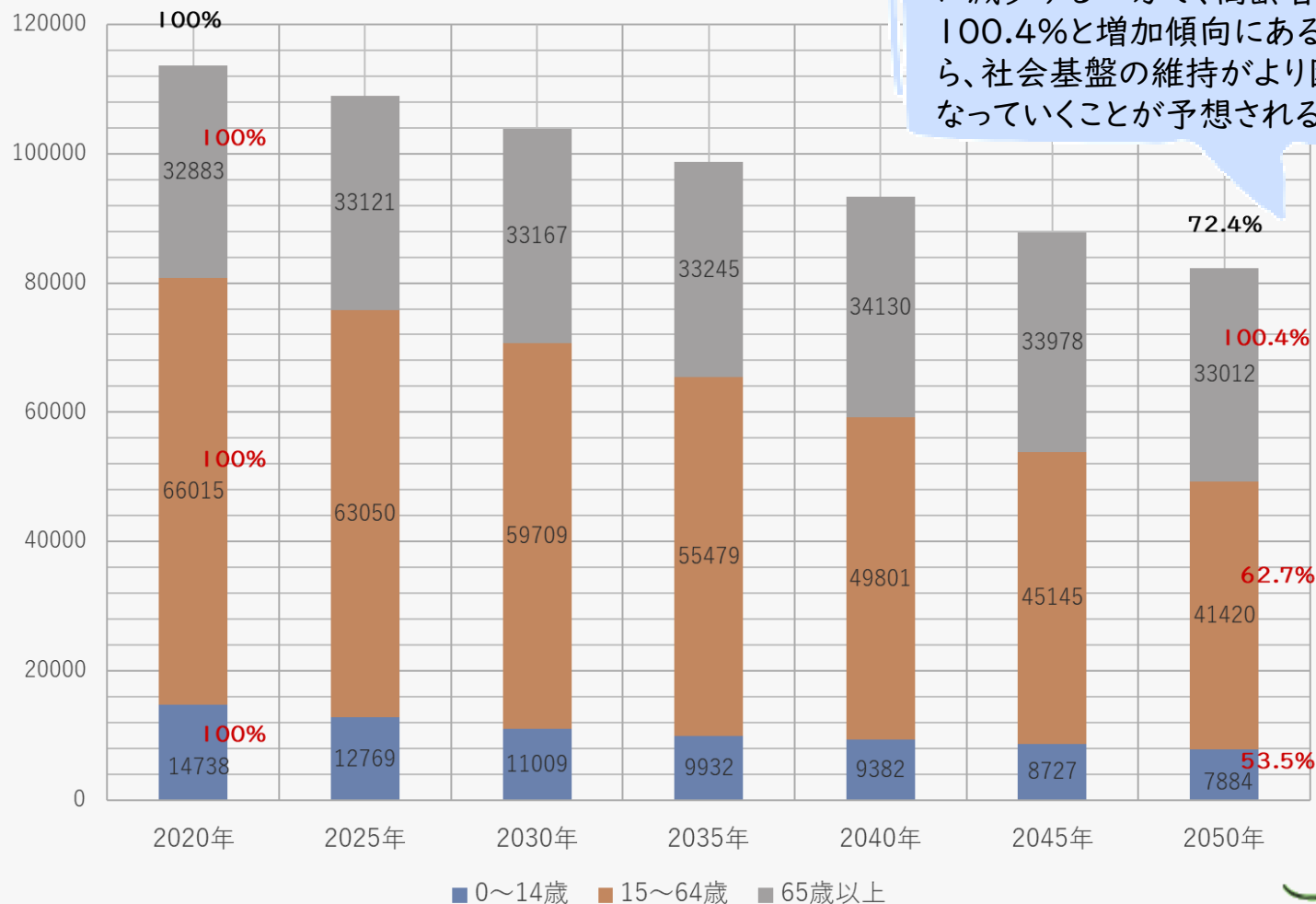


3. 南長浜地域まちづくりについて



人口推計の年齢階級割合

年齢階級別人口推計



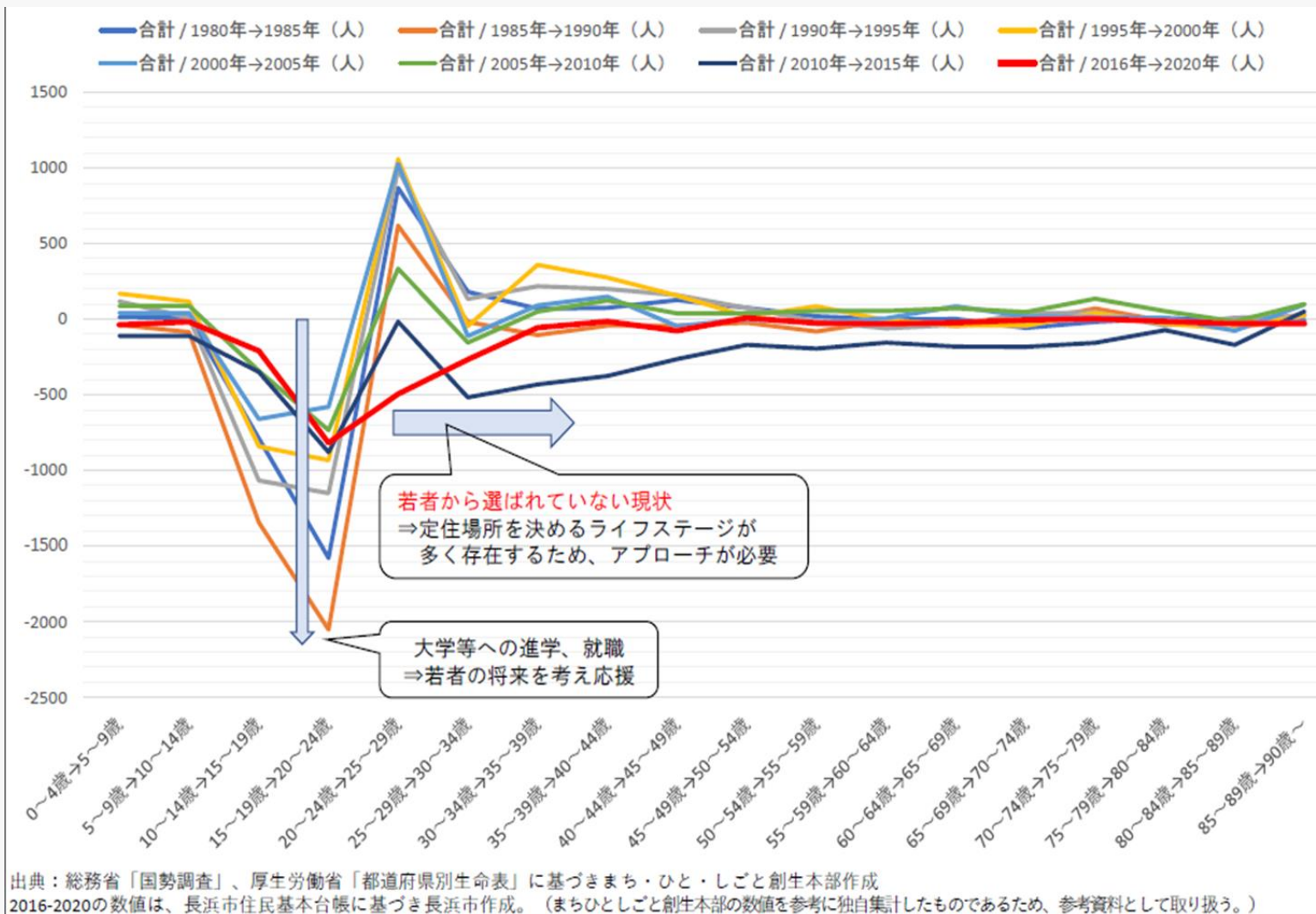
2050年には、少子高齢化がより顕著である。
働き世代が現在の62.7%と大幅に減少する一方で、高齢者は100.4%と増加傾向にあることから、社会基盤の維持がより困難になっていくことが予想される。



3. 南長浜地域まちづくりについて



年齢階級別純移動数の分析



3. 南長浜地域まちづくりについて



* 地域の課題

- 人口が減少し、地域社会の維持が困難となってきた
- 交通の便が悪い
- 魅力的な就労先がない
- 人が集積する施設（商業店舗、遊戯施設等含む）がない
- 地域行事が移住・定住の妨げとなっている場合がある
- 市街化調整区域が多く、土地規制が強い
- 政策ビジョンがない



南長浜地域の豊富な都市アセットを活かし、
市内外から若者が集まるような施策を講じ、
人口減少に歯止めをかける

* 長浜市総合計画第3期基本計画の重点プロジェクトの考え方

「長浜市に暮らす若者が、
現在も、将来も魅力を感じられるまちを創る」



3. 南長浜地域まちづくりについて



* 南長浜地域のまちづくり変遷

- S6 田村駅 新設
- S50 滋賀文教短期大学創立
- S62 国鉄分割民営化により田村駅がJR西日本駅となる
都市計画市場として長浜地方卸売市場の決定
- H8 市立長浜病院が現在地に移転開院
- H15 長浜バイオ大学（私立）創立
- H24 下坂中地区、田村地区、寺田地区、田村駅東地区
4地区において地区計画（一部H27）策定、市街化区域編入（一部H27）
- H30 『田村駅周辺整備基本計画』策定
- R2 南長浜まちづくり検討会議
- R3 南長浜地域ビジョン検討会議
- R4 長浜市総合計画第3期基本計画策定
同計画内の重点プロジェクトに「南長浜地域まちづくり検討事業」を設定
（仮称）神田スマートIC事業化決定
- R5 南長浜地域まちづくり検討事業スタート
南長浜地域まちづくり共創会議・検討会議
ワークショップ [co-creation meeting]
『南長浜地域まちづくりコンセプト for 2050』を策定

eee

~~20~~ NOW



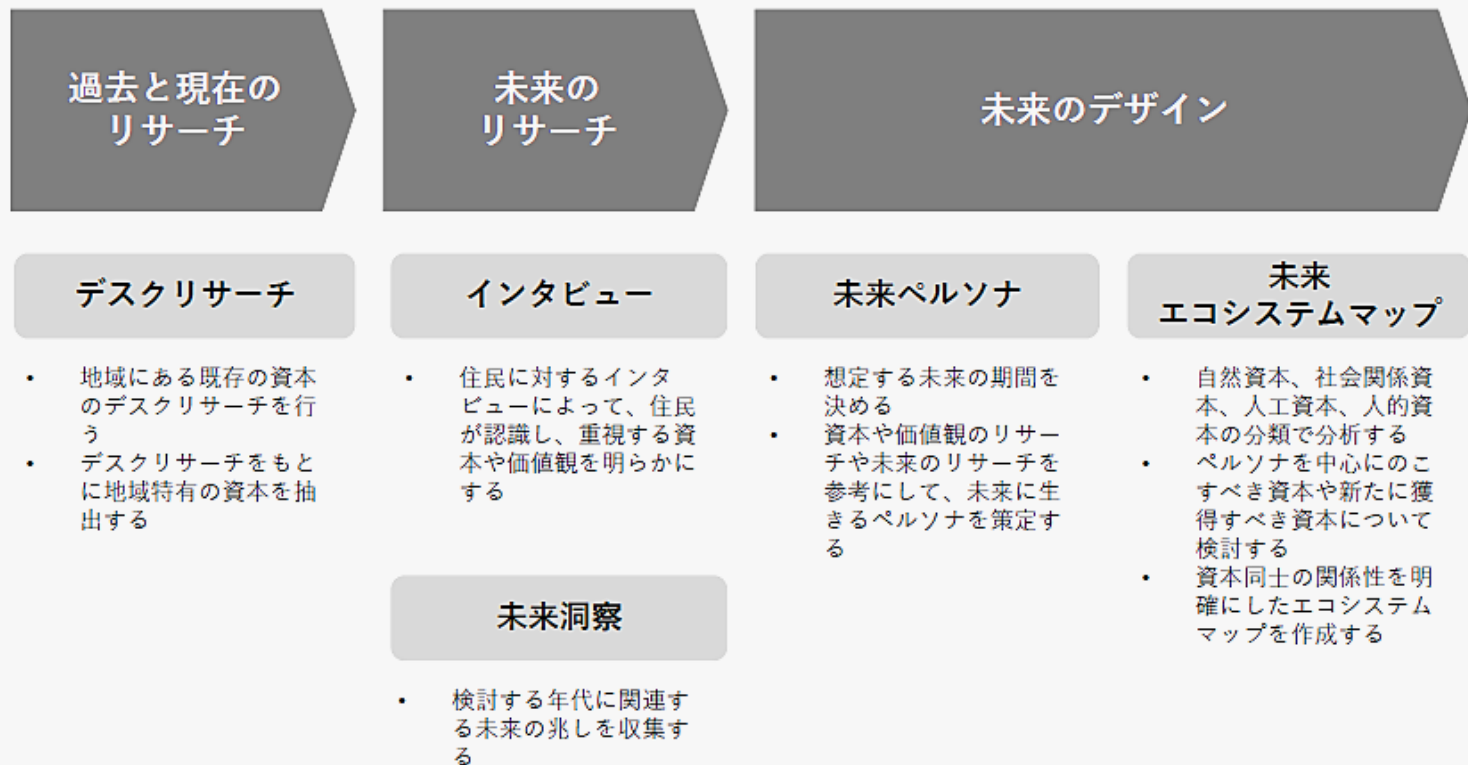
3. 南長浜地域まちづくりについて

* 次世代起点デザイン

「現在」ではなく、「未来」・「未来に存在する人」を起点としたデザイン

>> 持続可能な社会の実現には、中長期的な未来視点が必要

* プロセス



3. 南長浜地域まちづくりについて



* 次世代起点デザイン

「現在」ではなく、「未来」・「未来に存在する人」を起点としたデザイン

>> 持続可能な社会の実現には、中長期的な未来視点が必要

* プロセス



3. 南長浜地域まちづくりについて

過去と現在のリサーチ

※※ デスクリサーチ

既存の資本をデスクリサーチによってリストアップ
いつ、どのような背景でできたか明らかに

1973

年(頃)

タイトル

県立長浜農業高校移転

概要

明治29年に蚕糸業組合立簡易蚕業学校として開設して以降、名称や場所を変えて、1973年に現在の名越町に移転した。
現在は、農業科1、園芸科1、食品科1の3学科3学級制。
学校の敷地面積は19ha。実に東京ドーム4個分の面積を誇る。
文化祭と体育祭をあわせた学園祭のほか、春と秋には地域の人々が多数来校され、大いに賑わう「農産物販売会」が開催されている。



1990

年(頃)

タイトル

長浜中央卸売市場開場

概要

1966年に開場した長浜食品地方卸売市場が、老朽化、用地の狭あい、周辺住宅化による環境面から、移転整備することになった。
県下初の第3セクター方式で整備することとなり、1990年に田村駅前に移転開場した。
移転により来場者も増加し、品揃えも増えた。また、毎年田村町と共催で、市場夏まつりが開催され、朝市も土日に開催するなど、市民にも親しまれる市場づくりが行われている。
しかし近年は施設老朽化や来場者の減少、大型スーパーの出店による競合など、苦境に立たされている。



1998

年(頃)

タイトル

びわ湖環境ビジネスメッセ開催

概要

「びわ湖環境ビジネスメッセ」は、長浜ドームを会場に、滋賀県や県内の経済団体などで行う実行委員会が、環境問題の解決に向け、環境負荷を低減する製品や技術の商談を進める目的で始まった。琵琶湖を抱え「環境先進県」を掲げる県が事実上主導するイベントで、当初は国内最大規模の環境見本市であった。近年は、経済界から「来場者や出展企業が減り、魅力が落ちた」「マンネリ感がぬぐえない」との声が聞かれ、2109年を最後に開催されていない。



2023

年(頃)

タイトル

南長浜地域まちづくり
共創会議／検討会議設立

概要

現在地



※別添資料参照

- ・南長浜地域まちづくり年表
- ・資本(55個)

3. 南長浜地域まちづくりについて

過去と現在のリサーチ

＊ ＊ フィールドワーク

2023 年 7 月 25 日作成

政策デザイン課（旅程管理主任者：饗場 喬）

南長浜地域まちづくり検討会議現地フィールドワーク 旅行日程表

参加者：7 名

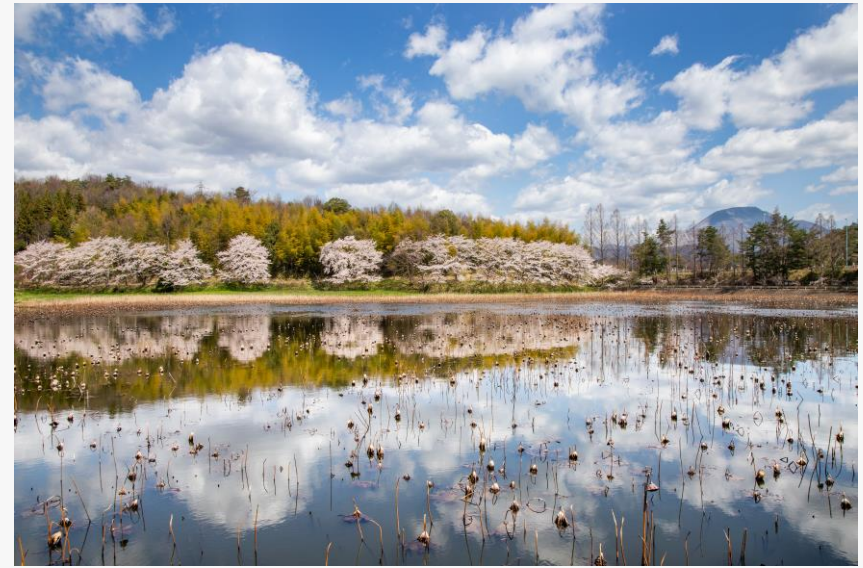
行き先	滋賀県長浜市（南長浜地域：六荘・西黒田・神田地区）		
期 間	2023 年 8 月 22 日(火) ・ 8 月 24 日(木) 14:15 ～ 17:25		
日付	スケジュール		備考
8 月 22 日 (火)	(集合①) JR 長浜駅 →→ (集合②) 長浜市役所 →→ (面談) 六荘まちづくりセンター 14:15 14:20 14:25 14:30 14:45		大津駅 13:10 発 ↓
and	→→ (車窓) 市立長浜病院 →→ (見学) 下坂氏屋敷跡 →→ (車窓) セフィロト病院 14:50 14:51 14:55 15:05 15:07 15:08		長浜駅 14:10 着
8 月 24 日 (木)	→→ (車窓) 西黒田地域（常喜・本庄・鳥羽上 付近） →→ (面談) 西黒田まちづくりセンター 15:08 15:25 15:25 15:40		
	→→ (見学) 長浜農業高等学校 →→ (車窓) 四面山・フィーチャーリゾート 15:45 15:55 15:57 15:58		
	→→ (見学) あいのたに（ハス園） →→ (見学) 神田パーキングエリア※スマート IC 予定地 16:00 16:10 16:13 16:20		
	→→ (面談) 神田まちづくりセンター →→ (見学) 神田山 →→ (車窓) 神田・六荘南地域 16:25 16:40 16:40 17:00 17:00 17:05		田村駅 17:32 発 ↓
	→→ (車窓) 文教短期大学・長浜地方卸売市場・県立長浜ドーム →→ (見学) 長浜バイオ大学 17:05 17:10 17:10 17:25		大津駅
	→→ (解散①) JR 田村駅 →→ (解散②) 長浜市役所		18:32 着

※当日の交通事情、天候等により、行程や時間が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

3. 南長浜地域まちづくりについて



これまでの検討／次世代起点デザイン方法論



3. 南長浜地域まちづくりについて



* 次世代起点デザイン

「現在」ではなく、「未来」・「未来に存在する人」を起点としたデザイン

>> 持続可能な社会の実現には、中長期的な未来視点が必要

* プロセス



3. 南長浜地域まちづくりについて

未来のリサーチ ** インタビュー

（現役世代及び将来世代インタビュー）概要

日時：2023年8月31日（木）

場所：南長浜地域の各まちづくりセンター

インタビュー項目：

* インタビュー数：23名

* 年齢層：10代～70代

1. この街（南長浜）の良さについて

→今の南長浜特有の資本を知り、未来に残すべきもの、変えるべきものを知る

- ①この街での一番の思い出
- ②この街で幸せを感じるのとき、幸せを感じるもの
- ③今後もこの街に残ってほしい、変えたくないと思うもの

2. 南長浜地域の今までについて

→ありえる未来の可能性を想像するために、街の変化/時の流れを知ってもらうために南長浜の過去年表を説明

3. 2050年（27年後）の自分、家族や友人、この街について

→未来はどうあってほしいのかを明らかにする

- ①27年後の2050年に自分が何歳になっているのか
- ②2050年の自分はどんな生活（ライフスタイル）をしたいのか
- ③今はないけど今後あるといいと思うもの
- ④2050年のこの街はどうなっていてほしいか



3. 南長浜地域まちづくりについて

Oさん | 女性 | 19歳 (短大1年生)

2023年8月31日10時-11時@文教短大

長浜市虎姫出身、長浜北星高校→文教短大。将来は保育士になるのが夢で、福祉学科で学びつつ、保育園でもアルバイト中。

2050年の南長浜について

保育士を続けて就職とスキルを上げていきたい。いま保育園「桃の家」でアルバイト中だが、保育士不足を実感。2050年は保育士が充実して欲しい。やってみたら、正直、続けられるかという懸念もしている。潜在保育士の復帰もやりやすくなるとよい。46歳だと主任になっていると思うが、保育園がいまよりも働きやすい職場になっているとよい。子供たちの期待に応えられる保育士になりたい。

私は実家もあるので、結婚してからここに住み続けたいと考えている。新しく地域に入ってくる人にも優しく接して、地域の繋がり(日常的な挨拶とか)を維持していきたい。地域の人がみな自分のことを知っていて見守ってくれる感じがよい。

2050年は、ここにいたくなる街、帰ってきたくなる街になってほしい。

長浜は良い地域だが、県外に出る人も多い。みんなが長浜に住み続けたいと思えるような地域になってほしい。

車やバスがないと行きたいところに行けない。車に乗れない人には不便な地域。そういうところが改善されるとよい。

電車の本数が少ないこと自体は人口と関係するのかもしれない。むしろ、駅周辺に遊べる場所があるとよい。

子供の父母は悩みを感じているはずだが、保育士だけだと解決できない。子育て支援センターなどで潜在保育士を活用し、子育てしやすい環境になるとよい。

心に余裕がある暮らしができ、長浜全体が地域の繋がりを持つような環境になれば他人に頼りやすくなる。

Nさん | 女性 | 20歳 (短大2年生)

2023年8月31日10時-11時@文教短大

彦根出身だが、長浜には校外学習や家族旅行でよく来ている。現在は彦根から文教短大まで電車通学中。

南長浜の思い出・好きなお店・残ってほしいところ

写真が好きなので、自然が多いところが好き。春は桜が綺麗。特に田村駅を出てすぐのところと、少し先の街路樹が好き。

8月頃、田村神社で夏祭りをやっていた。直前まで知らなかったが、地域の方が楽しそうにやっていた。音楽もすごく流れていた。コロナの時期はお祭りがなかったので、凄く印象に残っている。

お城が好き。普通の城は登城が大変だけど、長浜城はちょうどよい。

黒壁は昔からあるお店もあるけど、新しい甘納豆屋さんとか新しいお店もあって楽しい。彦根はお店がたくさんある感じではないので、余計に黒壁は素敵だなと思う。

おススメスポットは豊島池。

田村周辺の神社と桜は残っていてほしい。お祭りとかができる楽しい場所が残ってほしい。神社は場所によって祭っている神様も違うので、多様性は残っていてほしい。

最近はマンションが立つことも多いが、景観とか眺望の観点からは自然が残ってほしい。

以前に余呉湖のことを調べていた時に、長浜の歴史とかを聞いたりした。また、鮎そうめんを作っている人の話を聞いた時も同じように思ったのだが、長浜は独自の歴史がある街であり、それは残してほしい。

Iさん | 女性 | 21歳 (大学3年生・保育専攻)

2023年8月31日15時-16時@神田まちセン

加田町出身・在住。一貫して加田町で生まれ育ち、将来は保育士が幼稚園の先生になりたいと思って勉強中。

南長浜の思い出・好きなお店・残ってほしいところ

不便がないところが好き。買い物、交通とかには困らない。都会と比べても不満はない。移動も車を使えば問題ない。

地域行事が多い(盆踊り、曳山祭り)。小学校や中学校では友達と行っていた。

保育の勉強をしているので、子育てには自然環境があるほうがよいと思っている。都会には自然は少ないので、(自然があることが)長浜の魅力になっていると思う。

自然と公園。公園は少なくなってきているので、子供の遊び場として残してほしい。遊具がある公園が良い。森があるから虫がいるように、自然があるから多様性がある。

振り返れば、公民館(まちセン)を通じて地域の行事に参画できていたと思う。

自分は中学3年生くらいから市外に遊びに行くことが多くなった。けど、外出先はそういう感じになる。住んでいる地域としては不満を感じたことはない。

Tさん | 女性 | 龍谷大学3年生

2023年8月31日13:30-14:30@六荘まちセン

永久寺町出身・在住。公務員志望で、滋賀県内の自治体で子育て支援政策や老若男女が暮らしやすいまちづくりに関する政策に携わりたいと思い、勉強中。

南長浜の思い出・好きなお店・残ってほしいところ

地蔵盆が印象的だった。今、地域のまとまりがなくなっていると感じる。年によって違うが、地域でバーベキューやカレー作りなどをやった。

小学校の時あったマラソン大会も思い出。車通りや人通りが少ないからそのルート設定だったなと振り返ってみて思う。

南長浜は、自然が多いのに、ちょっと出ると、衣食住が揃うので暮らしやすい。自然と利便性とのバランスが良い。

地域の集まりが希薄化している中で、地域で集団登校とかは幸せな時間だったんだなと思った。小学校の時に、市場見学があり、うなぎつかみとかできたので楽しかった。

黒壁スクエア、フタバヤさん(スーパー)のかき氷など美味しい。(黒壁スクエアからちょっと外れたところにある。)

他県から長浜へ移住してきた人の話を聞くと、幼稚園が都会に比べて大きいらしい。そういう良さは残して欲しい。

小学校の時、学校に森があって休み時間に探検とかしていた。子供が色々経験を吸収して成長を最大化できるような環境。幼稚園とか小学校の子が遊べるような場所が欲しい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

Nさん | 女性 | 21歳 (滋賀県立大・デザイン専攻・3年生) 2023年8月31日15時-16時@神田まちセン
加田町出身・在住。一貫して加田町で生まれ育った。いつか海外に行きたいと常々思っており、本人は南長浜に住み続けるイメージはないが、仮に海外に住んだとしても、定期的に帰ってはきたいと思っている。

2050年の南長浜について

2050年の生活／暮らし
中国に住みたいと感じている。好きなグラフィックデザイナーが中国にいたので、直に見てみたい。

長浜には両親と弟がいて暮らしているはず。定期的には帰って来ると思う。

2050年の街のイメージ
帰ってきたくなる街＝いまと変わらない街。ガタガタな道を変えてほしくない。

コストコは遠くにあるから良いのであって、近くにある必要はない。



長浜の既開発エリアはどんどん便利になってほしい。ただ、南長浜はこれまでよい。便利の方が良い人は住みかえてもらって、南長浜のエリアは自然が残ってほしい。

自動車があるので特に不便には感じていないが、車が乗れない状況になると超困ると思う。

電車は確かに不便。究極的には時間を調べなくても乗れるくらいがよい。

(楽市の往時の話を聞いて) ドライブインシアターみたいな面白いイベントがあると良い。

(もしアート拠点にする計画などがあれば?) 知名度が上がるようなイベントや取り組みをやっているのであれば、ここでアートの仕事をしたいと思うかもしれない。

-77-

Yさん | 女性 | 50歳代半ば | 西黒田まちセンター勤務 2023年8月31日16:30-17:30@西黒田まちセン
西黒田在住27年(長浜市内の別町内から結婚を機に転居)。子供は2人いて、長男は大学生で一人暮らし中。

2050年の南長浜について

元気で趣味とか生きがいを持っていて暮らしていたい。

いま金太郎サポート会で高齢者支援をしているが、買い物や病院に行けず送り迎えしてほしいという依頼が多い。そういうことが解決されている社会になると良い。

※買い物は月2回、社協の車を借りて買い物ツアーをして対応(フタバヤ、コメリ、ドラッグストア等)。

2050年は、程よい割合で各世代が暮らす「バランスの良い」街になっているとよい。子供が外に出ていくことを防ぐには、働き先があることが、子育てしやすい街であることが大事。



ご近所さんと集えるような場所や関係性があると良い。いまはみな自分の生活で手一杯。西黒田まちセンターでも茶屋を開放しているが遠くからは来ない。そういう場所が各町内にあればよい。

子供がいると賑やかなので子育て世帯には来てほしい。そのために休耕田等をマンションに変えてもよいと思っている。ただ、神照町ほど市街化するのには避けたい。

免許返納しても自由に移動できる交通手段が欲しい。あるいは、近くに買い物できる場所があってもよい。昔は長浜ストア等の商店がその役割を果たしていたように思う。

長浜には子供が遊べる場所がない。子供が対象の施設ができると良い。

農業高校 生徒5人(男女) | 16、17歳 2023年8月31日10時-11時半@農業高校
長浜市、米原市、彦根市出身。農業クラブ等に所属。

南長浜の思い出・好きなところ・残してほしいところ

高校の販売会で、黒壁や高校で、自分たちで作ったクッキーなどを販売したこと。地域の人と交流できたのが嬉しかった。特に黒壁には、普段は出会わないような人たちが来てくれたのが印象的。

学校に通う道の景色。ビルがないので、空が高い。高校1年生のときは、よく写真を撮っていた。

黒壁のお祭り。小さい頃から毎年行っている。黒壁には、家族や親戚、友人と何度も行っている。



南長浜の自然やその景色。時間や季節でそれぞれの美しさがある。霧が畑がキラキラしている様子。どこからでも見える伊吹山。京都などの都会から帰ってくると、いつも長浜の自然の良さを感じる。建物をたてるのではなく、自然を残してほしい。

黒壁。黒壁のような場所がないと、友達で集まる場所がなくなってしまう。特に、農業高校は生徒が様々な地域から通ってくるので、集まるとしたら長浜だから。

人のあたたかさ。でも、近所などで助け合いはしたいが、近所のことを常に知っているような関係性はいい。

農業高校 生徒5人(男女) | 16、17歳 2023年8月31日10時-11時半@農業高校
長浜市、米原市、彦根市出身。農業クラブ等に所属。

2050年の南長浜について

農業高校の教員になって、全力で生徒に寄り添いたい。高校の選択肢は少ないので場所は選ばないが、いずれは長浜の高校で教えたい。

仕事をしながら、長浜に住みたい。あるいは長浜のように自然が豊かなところに住みたい。

農業高校の近くで、6人の友人たちとお店を開きたい。友人はそれぞれ進路がバラバラ。私は料理関係、ある友人は教師を目指し、ある友人は園芸関係。それぞれの強みを持ち寄って、お店をつくる。お店の発想になったのは、高校で物販をしたことや、高校の近くで友達同士で集まれる場所が少ないから。



このまま何も変わらないでほしい。このままの景色。でも、若者が減って老人ばかりになるのはいや。

長浜駅周辺は建物が多くなっているので、南長浜のあたりは田んぼや自然がいっぱいのほうがよい。

映画館。その他のものは最低限あると思うが、映画館があれば友達やみんなで行ける。

交通手段がもう少しほしい。バスが少ない。雨や風の日に高校に通うのがすごく大変。

-83-

3. 南長浜地域まちづくりについて

Tさん、Wさん（男性） | 30代
長浜の実家の稼業を継ぐ。

2023年8月31日16時半-17時半@商工会

南長浜の思い出・好きなおところ・残してほしいところ

曳山祭りまつり。子どもの頃から参加でき、70代の人もやっている。世代を超えて人間関係を形成できるのが素敵。近所のおっちゃんに怒られる。でもお酒が飲めるようになると一緒に飲んだりして関係が深まる。いつでも離れられ、いつでも帰ってこれるという安心感がある。

自然の豊かさが魅力。田村駅付近の琵琶湖の秋の夕日がたまらない。

全回まわったうえで感じる、圧倒的な住みやすさ。めちゃくちゃ田舎だと不便だが、長浜は最低限の買い物などには困らず、ほどよい田舎感がある。都会と比べて物価も低いので、そこそこの年収があれば住める。ちょうどよい田舎。

良くも悪くも不特定多数になれないところ。人同士が裏切れない。深く関わり合える。

人のつながり。一般的には非効率と思われるようなめんどくさいコミュニティ。一方で、新しい人を排除しようということがないところ。

商売っ気があるところ。一方でドライではない。近江商人のような三方よしの気質がある。

Tさん、Wさん（男性） | 30代
長浜の実家の稼業を継ぐ。

2023年8月31日16時半-17時半@商工会

2050年の南長浜について

仕事をばりばりしながら、長浜のまちづくりに関わっていたい。
多くの先輩たちがいるので、イメージしやすい。

都会での生活と比較して、ゆとりある暮らしができるおかげもあり、旅行などもたくさんしたい。

ほどよい人口であるべき。10万人は下がないほうがよいのでは。そうしないとインフラなどを維持できない地域が出てきて、住めなくなってしまう。

環境・エネルギー問題への対応。足元の事業にはまだそこまで大きな影響はないものの、今後の情勢を考えると対応が求められる可能性もある。そのとき、いち事業者としてやれることは限られるので、地域全体で取り組めるとよい。

交通手段。クルマがないと生活できない。とくに観光客にとっては不便。

Tさん | 男性 | 70代
加田町在住、元市役所職員。

2023年8月31日17時45分-18時30分@長浜市役所

南長浜の思い出・好きなおところ・残してほしいところ

昔は山との関わりが深かった。薪をとったり、遊び場になったり。山からの琵琶湖を見たときの美しさ。

山の下のため池。ため池のまわりの桜や紅葉が美しい。池のハスは枯れてしまうときたなく見えてしまうためその管理が大事。

農作業の休憩中に、感じる琵琶湖の風。風が通る美しさを残し、農業を残し、生産と風景が一体化したものを残していきたい。

Tさん | 男性 | 70代
加田町在住、元市役所職員。

2023年8月31日17時45分-18時30分@長浜市役所

2050年の南長浜について

長浜周辺の都市で働きながら、長浜で暮らし、地域コミュニティを大事にして助け合える街であってほしい。

今後週休3日制などが増えると、余暇が増える。その余暇を地域の自然やコミュニティ活動、文化活動に使う、その受け皿が必要。文化活動には大きな施設は不要。地域の人たちが自律的に活動しやすくなるためのきっかけとなる小さな施設があればよい。

将来のエネルギー問題にも対応できるよう、地域内でエネルギーの自給ができる仕組みが必要。

気候変動の対応のため、クルマ中心の社会でなく、自転車と車が共存した道づくり、まちづくりが必要。

3. 南長浜地域まちづくりについて

第1回

未来のリサーチ

＊ ＊ ワークショップ

若者が魅力を感じられる
未来のまちへ

～共創～
意見交換させてください

Co-Creation-meeting
for 南長浜地域まちづくり

参加者募集

南長浜地域とは・・・
田村駅周辺から（仮称）神田スマートIC周辺にかけた地域一帯をイメージしています。
明確な範囲区分はなく、まちづくりコンセプトにあわせて今後検討していきます。

主催 長浜市

日時 令和5年7月2日（日）
9：30～12：00
※受付開始 9：00

定員 60名程度

会場 ながはまさざなみタウン
多目的ホールA・B
（長浜市高田町12番34号）

費用 無料
※飲み物等をご持参ください。

プログラム

- 主旨説明
- ワークショップ（意見交換）
 - ・地域の強み、弱みってなんでしょう
 - ・地域の価値を想像（創造）しましょう
- ワークショップ（発表）

自由な意見をお聞かせください

申込方法 下記連絡先へ電話、またはコチラから電子申請 <https://logoform.jp/ff/IsDem>

長浜市未来創造部政策デザイン課 TEL：（0749）－ 65 － 6505

＊参加者：33名

＊年齢層：10代～60代



3. 南長浜地域まちづくりについて

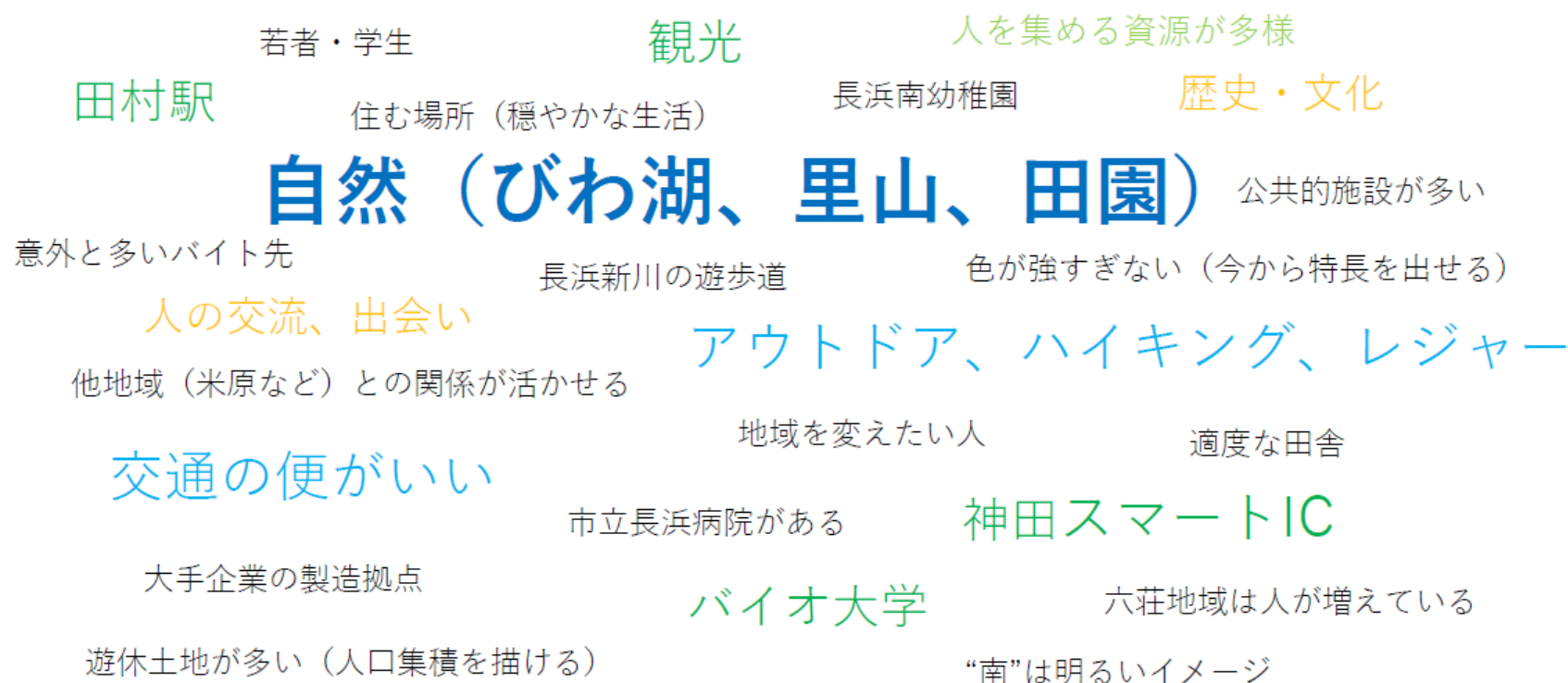


第1回

*ワークショップでの意見

南長浜地域の強み

※文字の大きさ＝意見の多さ Aibによるキーワード検索結果



*ワークショップでの意見

南長浜地域の弱み

※文字の大きさ＝意見の多さ Aibによるキーワード検索結果

若者にとって魅力がない 田んぼ道の灯がない 虫が多い
遊ぶところがない 若者が多いのにまちにいない（顔が見えない）
商業施設がない 地域ならではの食べ物がない 映画館がない
(安い) アパートがない 交通の便が悪い 共感できる仲間がいない
自分で何かをかえるやる気がある人がない 市街地と生活圏が離れており不便
レンタサイクルの返却時間が早すぎる 映えるカフェがない 政策ビジョンがない
魅力的な仕事やバイト先がない コンビニがない 各集落間の関係が薄い
日中過ごす場所がない 飲食店・スーパーがない 坂田駅と比べ寂しい田村駅
土地の規制が強い 行きたい場所がない
自治会、地域行事、風習が妨げ
民間の医療機関がない 給料が低い 高校の進学先が不足（進学校）
交通量が増えると安全面に不安 自治会協議費が高い 西黒田・神田は人口が減少している
いい施設があっても点在してまとまりがない

*ワークショップでの意見

どのような地域になればいいですか

※文字の大きさ＝意見の多さ Aibによるキーワード検索結果

生活圏と市街地が近く、自転車で生活できる地域

まちから行きたい、戻りたいと思える地域

バイオ大学の学びを活かせる企業が集積した地域 自給自足の体験ができる地域

自然を活かした地域

若者が好むコンテンツがある地域

子育てしやすい地域

トレンドと歴史文化が両立できる地域

自然が残る住宅地が広がる地域

黒壁 + α の観光地

仕事とレジャーが両立している地域

安心して暮らせる地域

方向性を同じくする人が集まってくる地域

バイオ大学と連携した地域

若者が外から来て楽しめる地域

市街地と緩やかにつながる地域

写真が撮りたくなる地域

賃貸物件の選択肢が多い地域

自治会や地域が、若者（の意見）に柔軟な対応ができる地域 **癒しのある地域**



3. 南長浜地域まちづくりについて



第1回

*ワークショップでの意見

必要な要素や仕組み

※文字の大きさ＝意見の多さ Aibによるキーワード検索結果

人・モノ・企業をマッチングできる仕組み
公共交通機関の充実
複数のしかけが繋がる仕組み
バイオサイエンス×地域の融合
安価なアパート（空き家のシェアハウス）
自然（びわ湖、里山等）を楽しむ
地域の特産品
持っている魅力をとがらせる
よそ者を受け入れる地域の寛容性
多世代が自由に意見交換できる仕組み
神田SIC周辺に付加機能
SNSなどで取り上げられる仕組み
アウトドア、ハイキング、ピクニックのブランド化
明確なビジョン
既成概念を取りはらう
若者が好むインフラ整備（映画館、居酒屋、ショッピングモール等）
農業を応援する仕組み
魅力を発信できる仕組み
まち全体の連携
土地規制の緩和（企業誘致）
同じ方向性を持った人がつながる仕組み
若者が余暇活動できるスポット・居場所
南小・南中のブランド化
Uターンや起業を考える人をバックアップできる仕組み
未開発の資源を活用して金銭を得る仕組み

3. 南長浜地域まちづくりについて

第2回

*参加者：15名

*年齢層：10代～80代



南長浜地域
明確な線引きはありませんが、今回は
堀内長浜南小学校区を想像して、議論
を進めます。

田畑や里山、びわ湖など美しい景観に、学術・産業・医療福祉・交通に関する既存施設が融合する南長浜地域。南長浜地域まちづくり共創会議/検討会議では“地域内外から若い世代を惹きつけるまちづくり”を目指し、2050年を想像して必要な要素を議論して参りました。
この度、より多くの方々からまちづくりのアイデアを伺いたく、ワークショップを開催させていただきます。
未来の南長浜地域に必要なモノ・コトは何か?ぜひ一緒に考えましょう!

と き 2024年1月21日(日) 9時30分から12時

ところ 長浜バイオ大学 命翔館3階アクティブラーニングルーム①
(長浜市田村町1266番地 JR田村駅西口下車すぐ)

定 員 60名程度 **参加費** 無料

内 容 ワークショップ形式で、皆様から未来のまちづくりについてアイデアを伺います。

申込方法 下記アドレスまたは右記QRコードの専用フォームからお申し込みください。
<https://logoform.jp/f/jksN9>

※電子申請ができない方は下記連絡先に直接お申し込みください。



私たちは2050年の長浜市民です。
まわりの未来は、皆さんのアイデア次第です!



主 催 長浜市未来創造部政策デザイン課 **TEL** 0749-65-6505
連絡先 (長浜市八幡東町632 長浜市役所4階) **FAX** 0749-65-4006

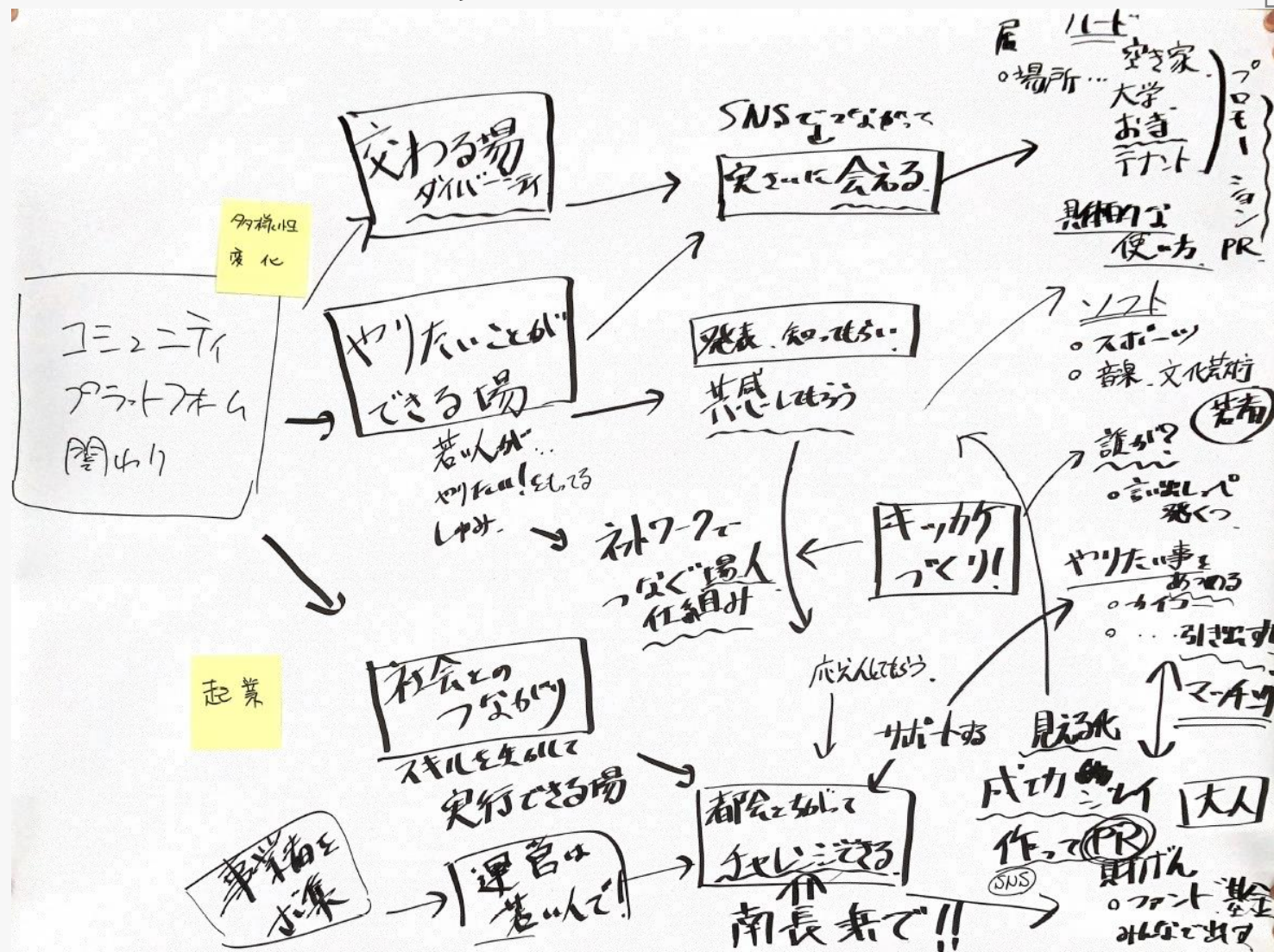


3. 南長浜地域まちづくりについて



第2回

* ワークショップでの意見



3. 南長浜地域まちづくりについて



第2回

* ワークショップでの意見



3. 南長浜地域まちづくりについて



未来のリサーチ ＊＊資本の抽出

- ・デスクリサーチとインタビュー等を参考に資本カードを作成

資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本

資本の名称

自然を感じる景観（山や夕日など）

資本が人に与える価値

癒しや感動を与える

資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本

資本の名称

自治会イベント（地蔵盆、おこないなど）

資本が人に与える価値

楽しみを与えてくれる
家族、友人、地域の人との交流の機会を与える

資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本

資本の名称

農業従事者

資本が人に与える価値

農業という産業を支える
田畑を維持する

資本の分類 自然資本・社会関係資本・人的資本・人工資本

資本の名称

長浜サイエンスパーク

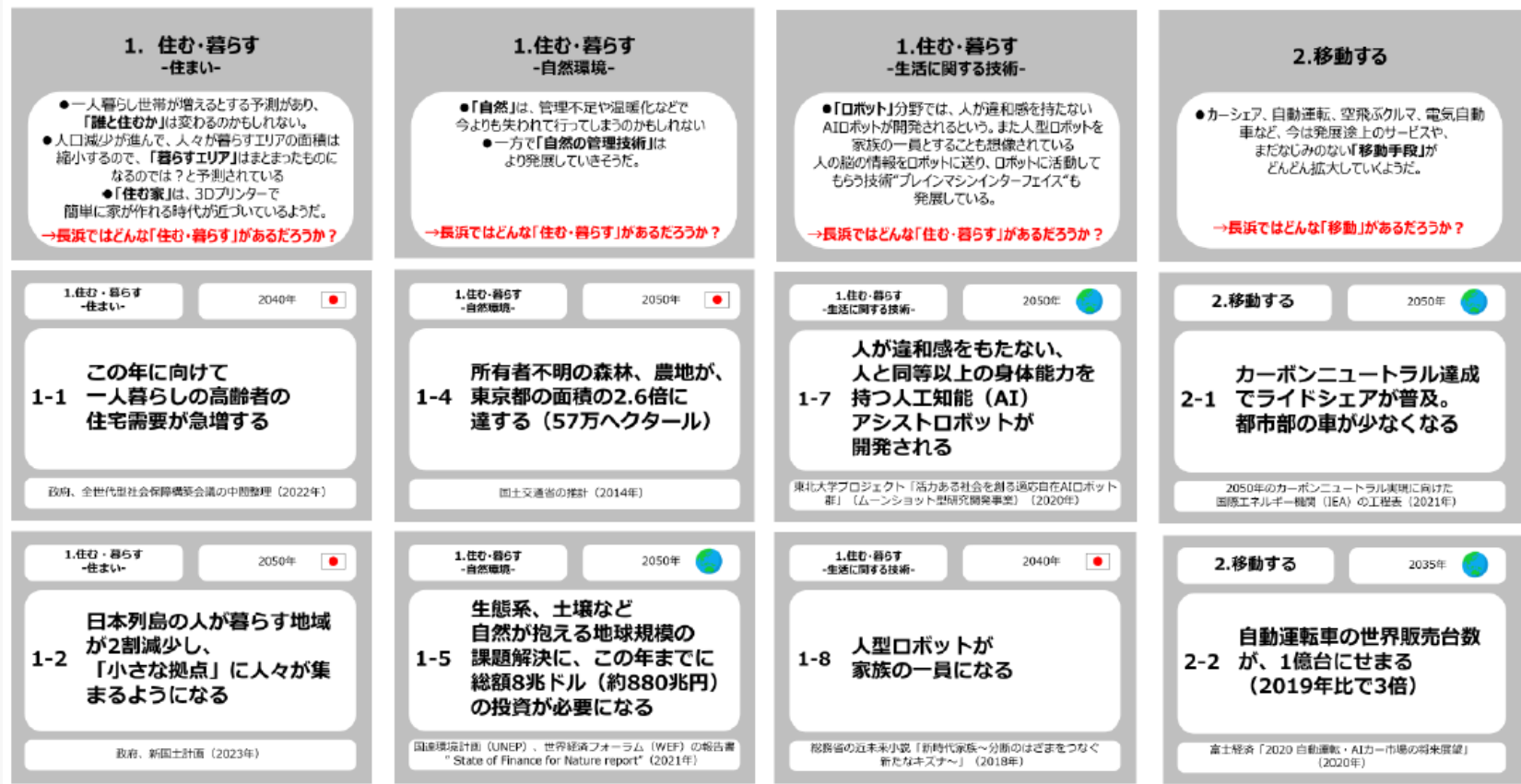
資本が人に与える価値

新しい仕事を生み出す

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来のリサーチ ＊ ＊ 未来洞察

- ・ 未来年表を用いて、設定した未来の期間の前後で想定されるトピックを収集
- ・ 住む・暮らす、移動する、費やす、労る、働く、育てるなどのカテゴリーで分類する



3. 南長浜地域まちづくりについて

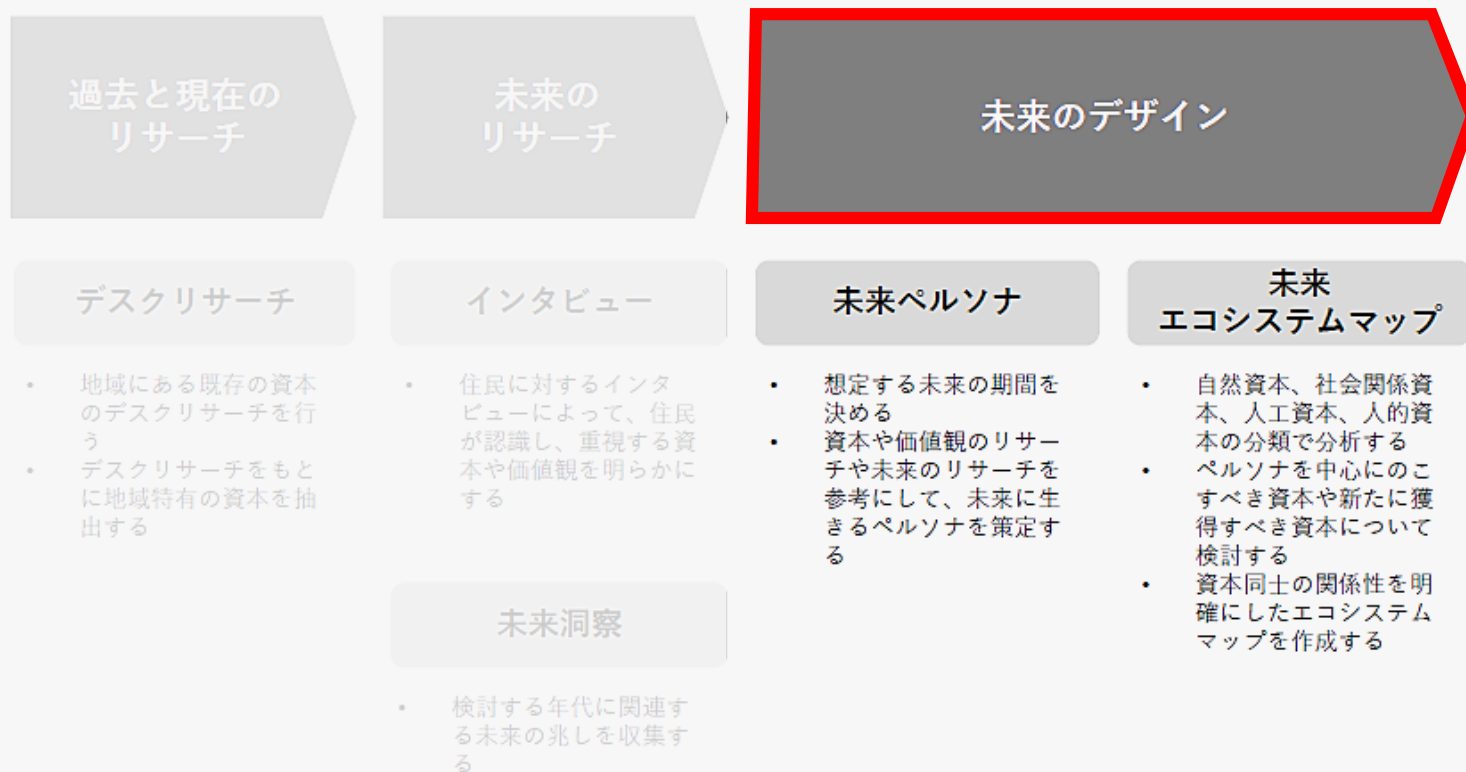


* 次世代起点デザイン

「現在」ではなく、「未来」・「未来に存在する人」を起点としたデザイン

>> 持続可能な社会の実現には、中長期的な未来視点が必要

* プロセス



3. 南長浜地域まちづくりについて

未来のデザイン ＊＊未来ペルソナ

想定する未来の期間を決める

資本のリサーチや未来のリサーチを参考にして、未来に生きるペルソナを設定

未来ペルソナ（10～20代前半の大学生世代）



氏名 向井 太郎

年齢性別 19歳（男性）
2031年生まれ

出身 長浜市鳥羽上町

家族構成 父 母 実家暮らし

現住所 長浜市鳥羽上町

楽しいこと

- ・ 室内での活動時間が多く、外出する時間が少ないので、家の外に出るとすぐに自然が目に入るこの街が好きだと思う。
- ・ 地域のイベント企画が上手くいくと、地域の人々から感謝されるのは嬉しい。特に、近くに住んでいる方々から対面で感謝されるとやって良かったと思う。
- ・ 小中高生の時に学校の「地域に関する授業」で学んだ地域の繋がりを強く感じる活動に心を惹かれ、現在の事業を行なっているが、学んだことをしっかり体現できているなと嬉しく思う。

日常生活

- ・ 仕事1：京都にある大学で福祉関係を学ぶ一年生。VR空間で授業が行われるため、平日は家にいることが多い。
- ・ 仕事2：地元の友人と企業し、地域の観光業を盛り上げる事業に従事している。
- ・ 休日：大学の友人たちとグランピングをしたり、外で身体を動かすことが多い。
- ・ 趣味：長浜の美味しいものを食べ歩いている。

困りこと

- ・ 大学で福祉について学んでいるが、就職を考えた時に、AI、ロボットに対して、自分は何ができるか少し悩んでいる。
- ・ 交通が不便なため、遠出しようとなると、かなり大変。
- ・ 親や祖父母の今後を考えると、もう少し医療機関が充実している場所に住んだほうが良いのかなと悩む。
- ・ イベントや企画を考える際に、運営側と地域の方の方向性が分かれることが度々あり、すり合わせに苦労している。

価値観

- ・ 常に自然と共存していきたい。（アナログ自然回帰）
- ・ 地域に貢献したいし、良さを外部に伝えたい。（地域思考が強い）
- ・ 新たなことにチャレンジし続けたい。
- ・ 何事も信頼できる仲間と協力するべきだ。
- ・ 今あるものをちゃんと（後世に）残す。

将来像

- ・ 自分のやりたいことが全力でできる環境に身を置きたい。
- ・ オンラインでの活動が主になっているからこそ、家族や友人、仲間との対面のつながりや野外での活動を大切にしていきたい。
- ・ 愛着のある地域に恩返しをしたい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（70代の単身世代）



氏名 青木 京子

年齢性別 70歳（女性）
1980生まれ

出身 長浜市加田町

家族構成 単身世帯・夫と死別・子は県外

現住所 長浜市加田町

日常生活

- 夫は10歳上で、10年前に死別した。夫が死んでから落ち込んでいたけれど、だんだん落ち着いてきた。
- 一人暮らしになってから、子ども達から介護機能もある人型ロボットをプレゼントされた。まだ介護は必要ないが、高いところのものがくなった時や、力仕事が必要になった時に便利なので活用している。
- 子どもを産んで以降は専業主婦。まだまだ元気なので、週に何日かはパートに出ているが、たまに来る孫の世話が最優先。散歩や地域活動・ボランティア活動が人との交流の機会になっている。

価値観

- 生まれ故郷でもあり、お祭りや自治会にはできる限り参加している。子供たちのために美しく楽しい街を残したいと考えている。
- 長浜の好きなところは自然環境。湖から吹いてくる風、広がる畑、それを見て夫と過ごした時間に思いを馳せている。南長浜で開発が進んだエリアもあって便利だけど、幸運なことに自分にとっての長浜の原風景は残されていて、ずっとこのままであって欲しいと思っている。

楽しいこと

- 夫がいた頃は一緒に旅行するのが楽しみだった。
- 昔から庭いじりが好きで、今は庭で野菜を育てている。自然が好きで、保全しなければという意識もあり、地域でアシストスーツを装着しての清掃や、森林管理をスマホで行うボランティアに参加している。
- 子ども達は皆働いているが、テレワークでどこからでも働ける状態なので、よく孫を連れて遊びに来てくれるのがありがたい。

困りこと

- 子ども達がたまに帰ってくるので、昔皆で暮らしていたままの間取りのまま、モノもあまり整理できないままとなっているのに困っている。

将来像

- 長浜の良さを守り、引き継いでいきたい。特に自然環境。
- 気張らず、自分のできる範囲でできることをやって、それが結果的に誰かの役になっていたら嬉しい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（30～40代子育て世代）



氏名 斎藤 湊

年齢性別 35歳（男性）
2015年生まれ

出身 長浜市加田今町

家族構成 妻、娘（3歳）

現住所 長浜市室町

日常生活

- 仕事：大阪にあるIT関連企業の会社員。ほぼ在宅勤務。出勤時は公共交通機関で移動。
- 休日：土日は、基本、家族と長浜市内で遊ぶ（ハイキング、黒壁スクエア）、時々、京都や彦根など近郊に遠出（公共機関、カーシェア）。週休3日のうち1日は、琵琶湖を中心とした環境保全を目的とした地域コミュニティに所属している。最近では、自然と絡めた保育留学等のイベント企画などを行っている（まちづくりセンターを活動拠点にしている）。
- 趣味：子どもたちと琵琶湖や近隣の山に生息する生き物を見つけること

価値観

- 自然を感じていたい。メタパースが一般的になっているからこそ、身体性を感じさせてくれる自然が一層好き。
- 地域に貢献したい（父親の姿を見て）。
- 家族が大切。子どもは幸せに生きてほしい。
- 今を大切にする（災害が多いため）。
- 消費するよりも、生み出していきたい。
- 自分の生活によって、他国・他地域・次世代の人に苦勞をかけたくない。

楽しいこと

- 娘の保育園の送り迎えや、通勤中に南長浜の山々を見て季節を感じる。
- 娘と遊ぶこと。
- 子どもたちと琵琶湖や山で遊ぶこと。

困りこと

- 子どもが少ないため、保育園や学校の数が絞られており、家から遠い。
- 社会保障は減少しているので、病気になると負担が大きい。
- カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブの浸透により、生活者としても消費抑制や、地産地消、サービス利用ではなく地域での助け合いが年々必要に。助け合うのはまだ慣れない。助けてもらった恩返しに常に念頭にあったり、地域の人からの目がたまにつらい。

将来像

- まちへの貢献、まちづくりの一環として、地域の人々が助け合いやすくなる仕組みができるとよい。気負いすぎずに助け合えるようなまちにしたい。
- 家族、親戚、地域の仲間といつまでも楽しく暮らしていきたい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（40代の南長浜来訪者）



氏名	川上楓		
年齢性別	40歳（女性） 2010年生まれ	出身	神奈川県横浜市
家族構成	夫	現住所	東京都品川区

日常生活

- 仕事：有資格の全国通訳案内士でありながら、滋賀県の地域観光コンシェルジュ（観光客のニーズに合わせて観光先・行程等を提案する人）でもある。AIの発達により言語の壁が取り払われつつあるものの、地域の文化や歴史を現地で生活している人の目線から再編集して伝えるという独自の方法論を持ちながら「心がふれあう観光」をモットーに仕事に励んでいる。
- 休日：夫と犬の散歩で公園に出かける。現住所は東京都だが、長浜の空き家を使ったに拠点生活もしている。
- 趣味：英文学や歴史

価値観

- 出身地や現在住んでいる町では祭りが少なかったのが地方の祭りへの憧れがある。
- 特に、長浜の曳山祭は壮大で惹かれるものがあった。
- 親戚も都市部に住んでいることが多く、日本の原風景がビルで囲まれた町であり、自然や古き良き日本に対する興味関心がある。
- 伝統、文化、歴史を大切に様々な人にその魅力を知ってもらうべきだ。
- 地域の伝統などは地域の人たちの手で守っていくべきだ。

楽しいこと

- （長浜・南長浜エリアに来訪するきっかけ）京都に旅行客を案内した際、日帰りで行けるところはないかと聞かれ、長浜を訪れたことがきっかけ。そのときは、金太郎相撲などのイベントを案内した。
- 棚田になっている蓮の花畑を見ることが好きだし、多くの観光客をそこに案内している。
- 自転車を借りて、観光客の人とサイクリングすることが好き。日本の田舎を“beautiful”と言ってもらうことに地元の人と同じくらいの誇りを感じている。

困りこと

- 観光として魅せる部分がある程度の距離を持って点在しており、どのようにつなげていくのかということがまだ悩んでいる。
- 南長浜エリアに住む人々の目線から地域の魅力を紹介して行きたいが、地元の人と繋がる機会が少ない。
- 実際に農作業を体験できたり、地域において観光客の人が一緒になって取り組めるイベントがあればいいと思うが、観光客はお客様という認識で受け身の体験になっているのが勿体無い。
- 来訪者に対して、自身の街を誇らしく語れる人がもっと増えてほしいと思っている。

将来像

- 夫と将来的にはスローライフを楽しめるちょうどいい田舎に移住したい。
- 犬の散歩が夫とのコミュニケーションが密に取れる時間で、地方に移住したとしても大切にして行きたい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（30代の移住者夫婦2人世帯）



氏名	豊田 正人		
年齢性別	36歳／男性 2014年生まれ	出身	兵庫県神戸市
家族構成	妻（32歳）	現住所	長浜市勝町

日常生活

- 仕事：WEBデザイナー。平日は在宅勤務中心。たまにクライアントのところへ赴く程度。
- 趣味：アウトドアが好きで、ハイキング、ボルダリング、フィッシング（琵琶湖でのバス釣り）をして過ごすことが多い。
- 休日の過ごし方：ボルダリング、ハイキング、フィッシングなどで過ごす以外は、地域のボランティア活動やコミュニティ活動に従事。さっとイラストを起こしたりできるので、地域活動のチラシ製作等で街の人から重宝されているのが意外と嬉しい。

価値観

- 自然・アウトドアが好きで、なるべく自然と共生できるような働き方をしたいと常々考えている。
- 仕事で長浜を訪れた際、山や川、湖などに日常的に触れ合える良い環境だと感じた。また、ちょっと中心部に出れば、衣食住に困らない点も魅力。
- これから子供を授かりたいと計画。自然が多い地域でのびのび育てようと思っており、2年前に長浜に移住。保育園や幼稚園も園庭が広くて良さそうだと感じている。

楽しいこと

- WEBデザインでアイデアが沸かなかったり、デスクに向かい過ぎて疲れしたりしたときが、散歩に出ることが多い。その際、家からちょっと歩くだけで、川があったり田んぼの横の畦道があったり、自然とすぐに触れ合えるのが楽しい。
- また、夜に星空を見ながら散歩するのも楽しく、週に何日か、運動も兼ねて妻とウォーキングしている。
- 南長浜は地域活動も充実しており、リモートワークが多い生活柄、リアルでの接点が多いことも楽しい。

困りこと

- 電車が不便な点がややネックに感じている。大阪まで行こうとすると、ちょっとした小旅行気分になる。ただ日常の移動は自動運転の普及もあって特に困ることはない。
- 子供を設けることを考えると、産婦人科が少ない点はやや不安に思っている。また、子供の遊び場があまり見当たらない点が懸念。公園は多いが遊具はあまり置かれていない。
- 教育機関も少ないので、子供がもっと大きくなったら、教育環境は心配。もし利発な子供だったら、偏差値の高い学校に通わせてやりたいが、市外通学となると通学が大変そうだと感じている。

将来像

- これからも自然と触れ合える環境で、妻と、願わくば子供2人くらいを授かって楽しく暮らしていきたい。
- 子供は、自然豊かな環境でのびのびと過ごして、感受性豊かな子供に育ててほしい。
- 現在は全てネットで完結してしまう時代なので、子供にはできるだけ地域のイベントに参加してもらって、学校とか以外でもいろいろな経験を積んでほしい。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（30代の2世帯同居）



氏名	柴 拓実		
年齢性別	32歳／男性 2018年生まれ	出身	長浜市高橋町
家族構成	妻…33歳 子…3歳 父…65歳 母…60歳 ペット（犬）…2歳	現住所	長浜市高橋町

日常生活

- ・ バイオ大学修士課程修了後、一旦は大阪の会社に就職するも、先輩に誘われバイオ技術に関するベンチャー企業に再就職。
- ・ 琵琶湖や山から近く、自然を感じながら仕事ができることからストレスはあまり感じていない。
- ・ リカレント教育プログラムで農業を学んだ両親と共に、副業として地元の農業会社で農業機械の操縦やメンテナンスを外国人移住者に教えている。
- ・ 家族2世帯で暮らすことにより生活を維持している。※円の価値が低下するなど社会情勢が原因で生活が厳しい状況。夫婦共働き、両親の助力（家事、年金、子守り）により安定している。

価値観

- ・ メタバース空間でのやり取りが日常となり、また、AI等の普及で生活の大部分が自動化されたことで、現実世界における人との関わり合いが薄くなったが、他者や自然との関わり、多少不便でも手間のかかる生活が大切だと考えている。
- ・ 仕事柄、自然や農業、再生エネルギーに強い関心があり、できる限り自然は残しつつもメリハリのある土地開発が必要と考えている。
- ・ 家族が何よりも大切。（Uターンを決めた一因も、医療・福祉・教育等の都市機能と自然のバランスが良く、子育てや介護に最適と感じたため。）

楽しいこと

- ・ 仕事終わりのマリンスポーツや、たまの週末に家族や友人と楽しむ里山デイキャンプ。
- ・ 自分で育てた作物を収穫し、料理をすること。
- ・ 家族とのゆったりとした時間。
- ・ 地域行事に参加し、多くの人と関わりを持つこと。

困りこと

- ・ 子どもが安全にボール遊びできる公園がない。
- ・ 慣れ親しんだ南長浜で、企業拡大や独立を考えているが、土地の規制があって思うように進まない。
- ・ 人口減少により地域活動のメンバーが不足している。
- ・ 電気代が高騰し続けており町内の再生エネルギー施設を増やしたいが、いよいよ設置場所がなくなってきた。

将来像

- ・ 自然環境や景観と調和がとれた多くの企業が南長浜に立地し、切磋琢磨して企業が展開する“まち”になればいいと考えている。
- ・ 将来的には自分でベンチャー企業を立ち上げ独立したい。
- ・ 孫の代（3世代）までが同じ敷地もしくは隣り合って暮らすようなアメリカンファミリーを夢見ている。

3. 南長浜地域まちづくりについて

未来ペルソナ（単身 | 40歳代）



氏名	河田 博		
年齢性別	45歳／男性	出身	長浜市名越町
家族構成	独身	現住所	長浜市名越町

日常生活

- 仕事：栗東市の電機メーカー勤務。大学卒業後に地元で就職。仕事一筋に打ち込み、現在は中間管理職として奮闘中。近頃の部下は外国人の方が多く、多文化マネジメントに奮闘中。
- 趣味：単身で楽しめることが趣味で、ハイキングや釣りに行くことが多い。
- 休日の過ごし方：予定がない日はハイキングや釣りに行くことが多い。地域行事があるときは、地元のスポーツ団のコーチ（野球）などのボランティア活動にも積極的に参加して交流を楽しんでいる。

価値観

- 基本的に自分のペースを乱されたくなく、自分のライフスタイルを優先してきた結果、特に不自由を感じることもなく、独身生活が続いている。
- あくせくせず、のんびりと暮らすのが好き。長浜は文化・風土、そしてそこで暮らす人ものんびりした雰囲気であり、自分の好みに合致。これからも長浜でのんびりと暮らしていきたいと考えている。

楽しいこと

- 休日にのんびり釣りをしたり、ハイキングをしたりして、自分の時間を思いのままに過ごすのが楽しい。
- 独身生活だが、地域の行事が充実しており、スポーツ団（2050年は少年だけでは存続できなくなり、中年や外国人が主体）や地域の祭事を通じて、地域の人と緩やかなつながりを感じるとともに、自分を必要としてくれていると感じるときが嬉しい。
- そうした活動を通じて、異文化の人に異なる文化を教えて貰うのが秘かな楽しみ。

困りこと

- ドローン宅配を使えば衣食には困らないし、ちょっと郊外に出ようとしたときに、自動運転もあるし、新幹線でもアクセスが良いので、いまのところ困っていない。しかし、改めて考えてみると、将来的に独身生活が続いた際に、介助・介護が必要になった時を思うと、周辺の十分な病院や介護施設がないと困るかもしれない。
- 中高年や外国人の参加により、地域行事やスポーツ団は存続しているが、地域のスポーツ施設や行政施設が集約化されてしまい、場所によっては非常に遠出になる点が困っている。最近はVR参加にも関心が出てきた。

将来像

- 恐らく結婚の機会はなく、これからも独身生活が続くと思うが、ボケないようにアクティブに過ごしていきたい。
- 引き続き、単身ならではのフットワークの良さを生かして、地域団体や催事に積極的に参加して楽しみたい。
- 気が付いたら、長浜も外国出身の方が増えた。これからも長浜の自然が多いところ、のんびりとしたところなどの良い点を外国の人にもご理解いただき、多文化共生が当たり前になった2050年の社会でも、地域の良さが維持できる地域であってほしい。

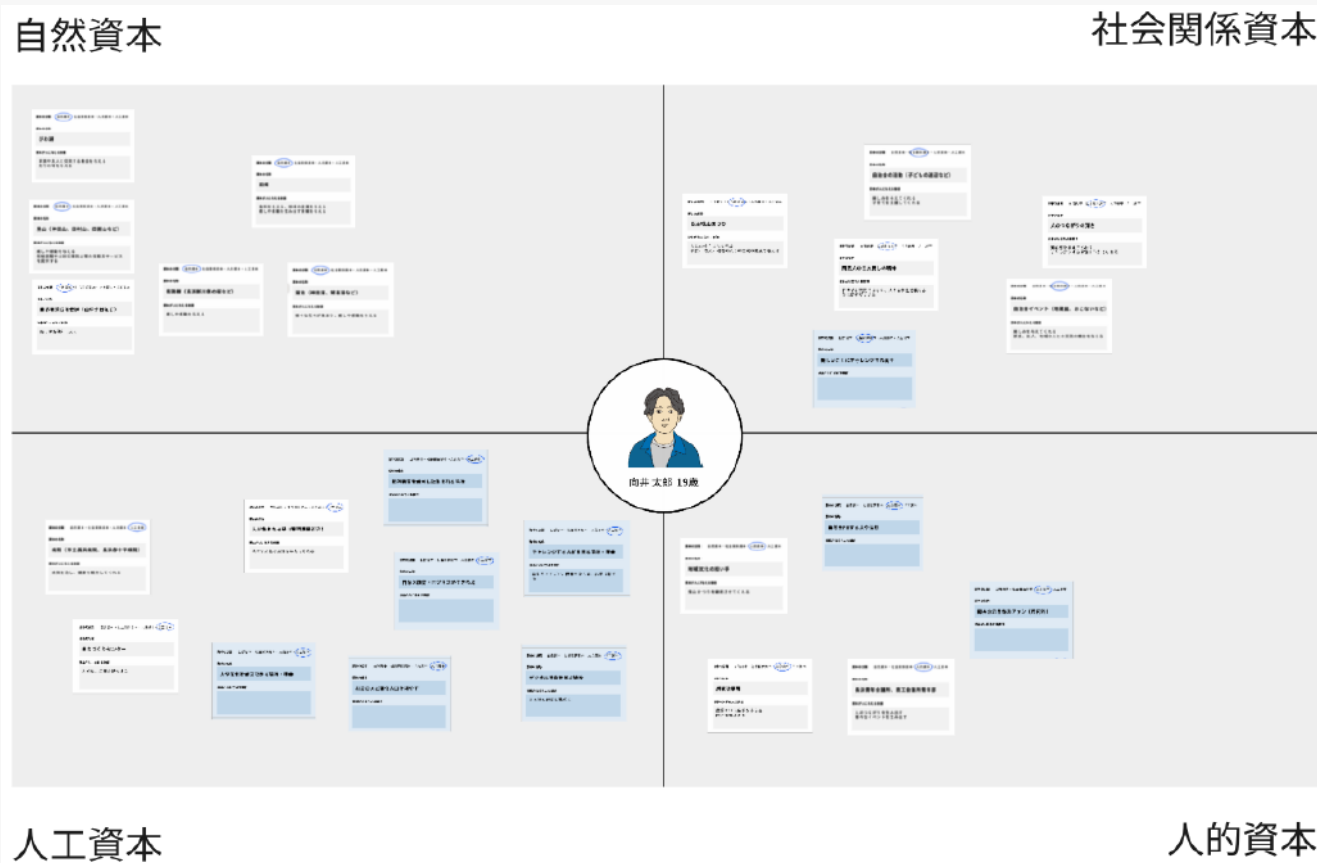
- ・ 未来ペルソナを起点にして「のこす資本」を選択
- ・ 未来ペルソナを起点にして「新たに獲得する資本」を導出



3. 南長浜地域まちづくりについて

未来のデザイン ＊＊資本の検討（２）

- ・それぞれの未来ペルソナを起点に、各資本を「自然資本」「社会関係資本」「人工資本」「人的資本」に分類
- ・すべてのペルソナのマップを統合したマップを作成する

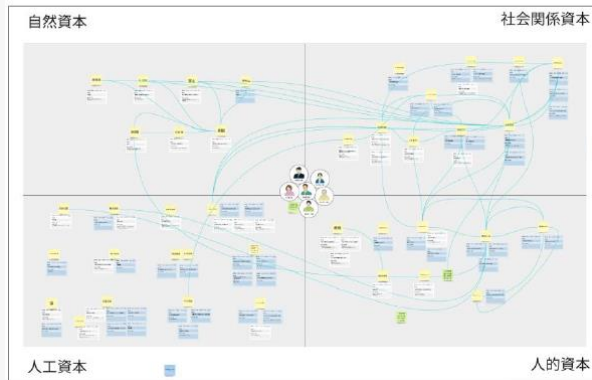


3. 南長浜地域まちづくりについて

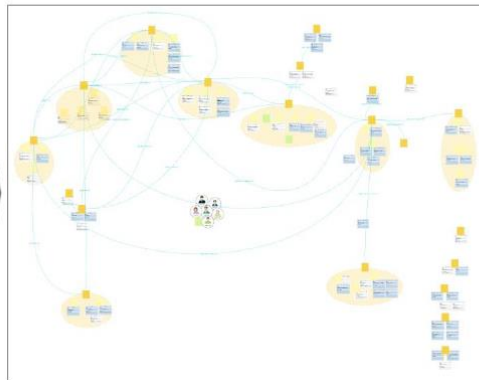
未来のデザイン ＊＊エコシステムマップ作成

- ・ 関連する資本同士をネットワークでつなぐ
- ・ 類似の資本をグループ化する
- ・ 資本に関係するところにペルソナを配置する

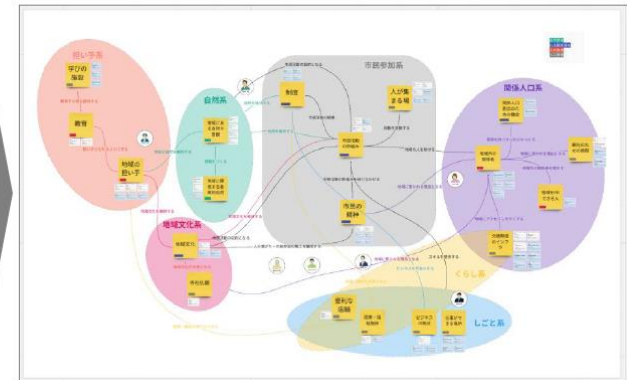
資本同士を関係性でネットワーク化



資本のカテゴリーを外して
機能面でグループ化



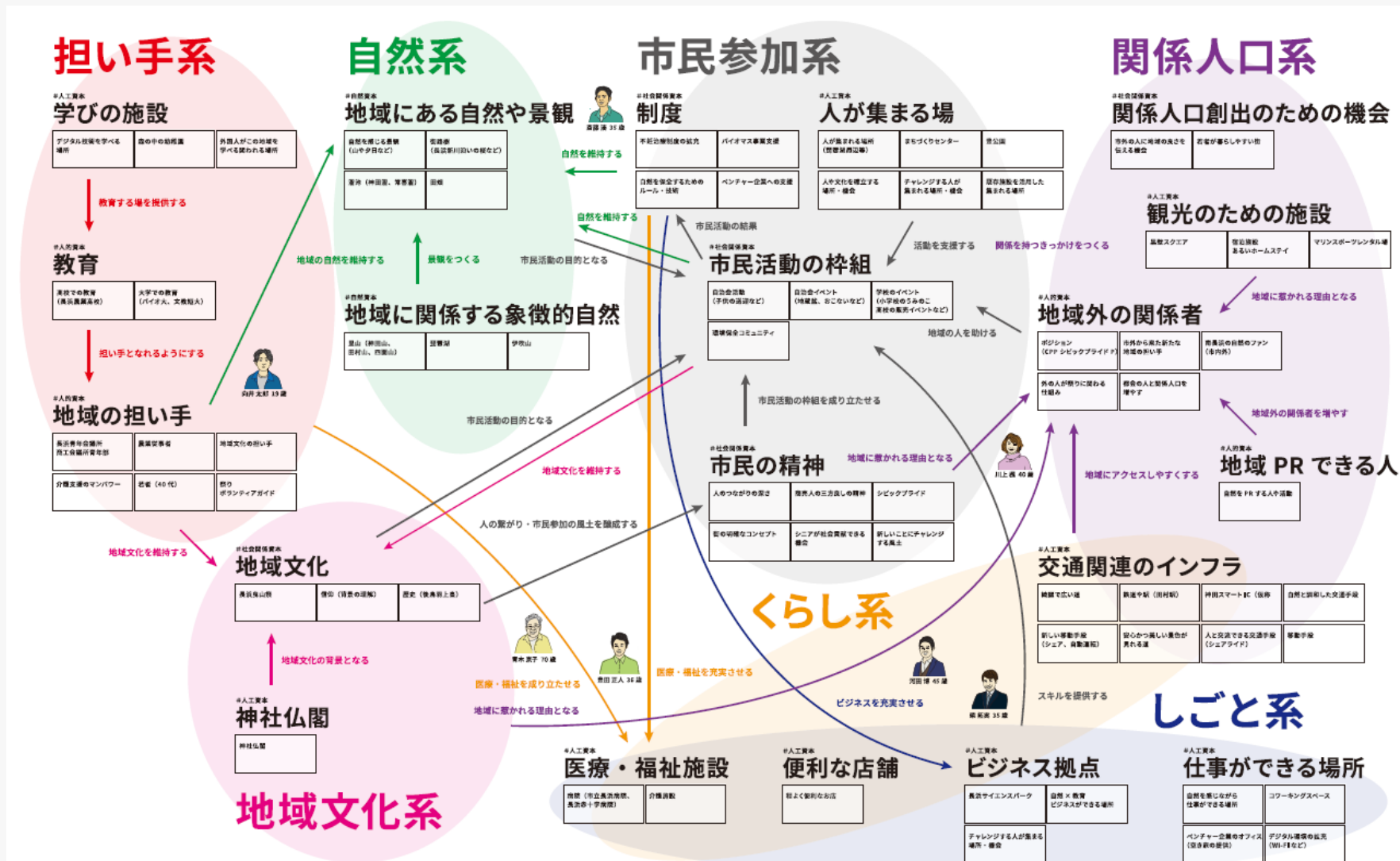
ペルソナを加えて
エコシステムマップを完成させる



4. 検討会議の進め方

* 2050年南長浜エコシステムマップ

これまでの検討／次世代起点デザイン方法論



3. 南長浜地域まちづくりについて



* 南長浜地域まちづくりコンセプト for 2050

「 まじわり、未来がそだつまち 」



南長浜地域において、「のこす」「そだつ」「まじわる」の3つの視点を重視しつつ、2050年にあるべき賑わいや他地域をけん引する先進的な取り組みを目指します。

のこす

自然／景観
伝統文化
神社仏閣
地域の活動



そだつ

担い手となる人材
新たな機能・ビジネス等
健康医療
食料や再エネ
愛着や誇り



まじわる

地域内外の交流
同遊観光
交流・関係人口
交通インフラの整備
新古の融合



3. 南長浜地域まちづくりについて



◆まちづくりのコンセプト◆

まじわり、未来がそだつまち

のこす



- ・地域古来の歴史や伝統文化、神社仏閣が維持され、次世代へ引き継がれている。
- ・里山、田園、溜池など、固有の豊かな自然や景観が保全されている。
- ・地域で支えあう市民活動の枠組みが継承され、機能している。

そだつ



- ・大学や高校などの教育インフラを背景として地域の担い手や世界に羽ばたく人材が育つ。
- ・誰もがチャレンジできる場や機会が豊富にあり、新しい仕組みや活動が盛んに生まれている。
- ・地域固有の資源や知の集積を活かして、若者にとって魅力ある新たなビジネスが次々と創出される。
- ・賑わいを創出する店舗や施設が立地している。
- ・健康管理・医療・介護・福祉サービスが充実している。
- ・食料や再生可能エネルギーなどの地産地消が広がっている。
- ・歴史や伝統文化、故郷の風景、市民活動等を通じて愛着や誇りが醸成される。

まじわる



- ・高い交通利便性を背景に、長浜に人や資本を呼び込むゲートウェイとして機能している。
- ・地域内外の若者が集まり、様々な分野で活発に交流、活動している。
- ・地域資源を活かして交流・関係人口が絶えず往来している。
- ・バイオなど先端的な知の集積がある一方で、昔ながらの伝統（「結」等）が存在しており「新しいモノコト」と「古き良きモノコト」が共存している。
- ・「デジタル」と「アナログ」、「ファスト」と「スロー」など、これまで相対と捉えていたヒト、モノ、コトをともに地域の価値として、人々を惹きつけている。

R6

実現へ向け、ビジョン・事業を考案



3. 南長浜地域まちづくりについて



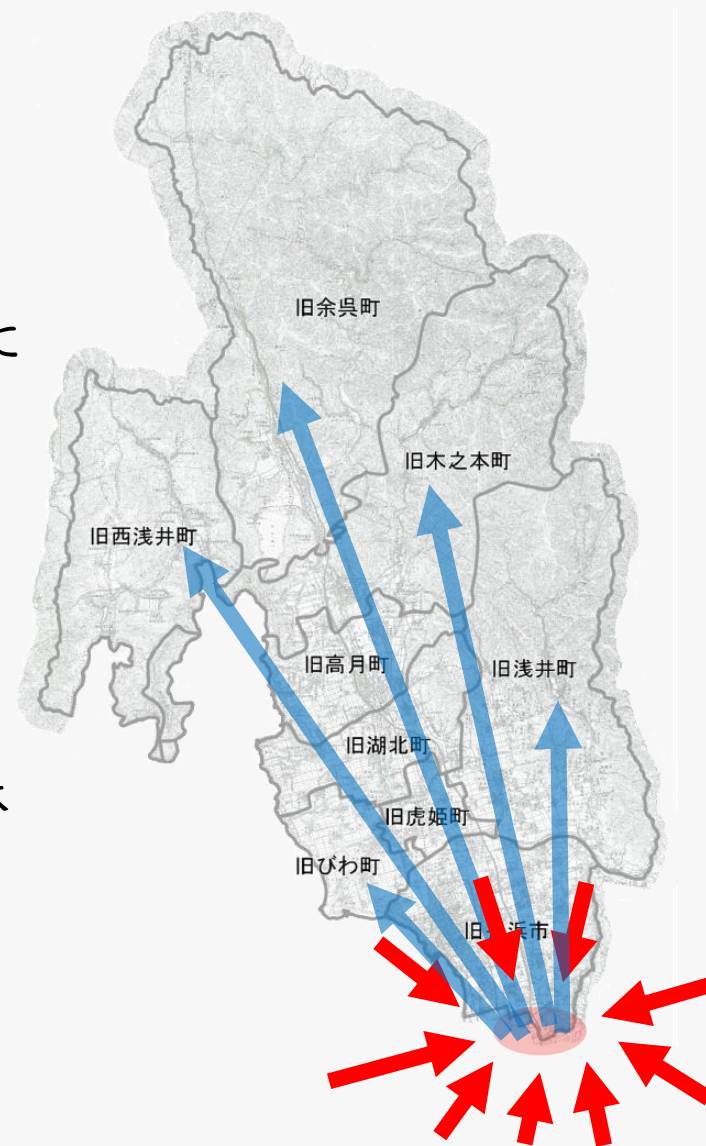
* まちづくりの目標

<ミクロ> 南長浜地域において

『地域資源を活かして、地域内外から人（特に若者）や資本を集積できるまちを目指す』

<マクロ> 長浜市全域において

『革新的・先進的な取り組みにより、市域全体に好循環をもたらすまちを目指す』



4. 検討会議の進め方



* 検討体制

南長浜地域まちづくり共創会議



南長浜地域まちづくり検討会議

ゲートウェイ部会

インキュベーション部会

ライフスタイル部会

地元まちづくり団体、関係団体、施設の長および学識経験者で構成

* 主な役割

- ・ 地域意見の反映
- ・ 地域への周知、機運の盛り上げ
- ・ ビジョンの承認

地域内外の専門家、専門家および学識経験者で構成。具体的な提案・実施の検討を行うため、検討会議内に3つの部会を設置

* 主な役割

- ・ 令和7年度に実施する事業の検討
- ・ まちづくりビジョンの検討

南ながはま共創パートナー企業

南長浜のまちづくりに賛同し、協賛する企業

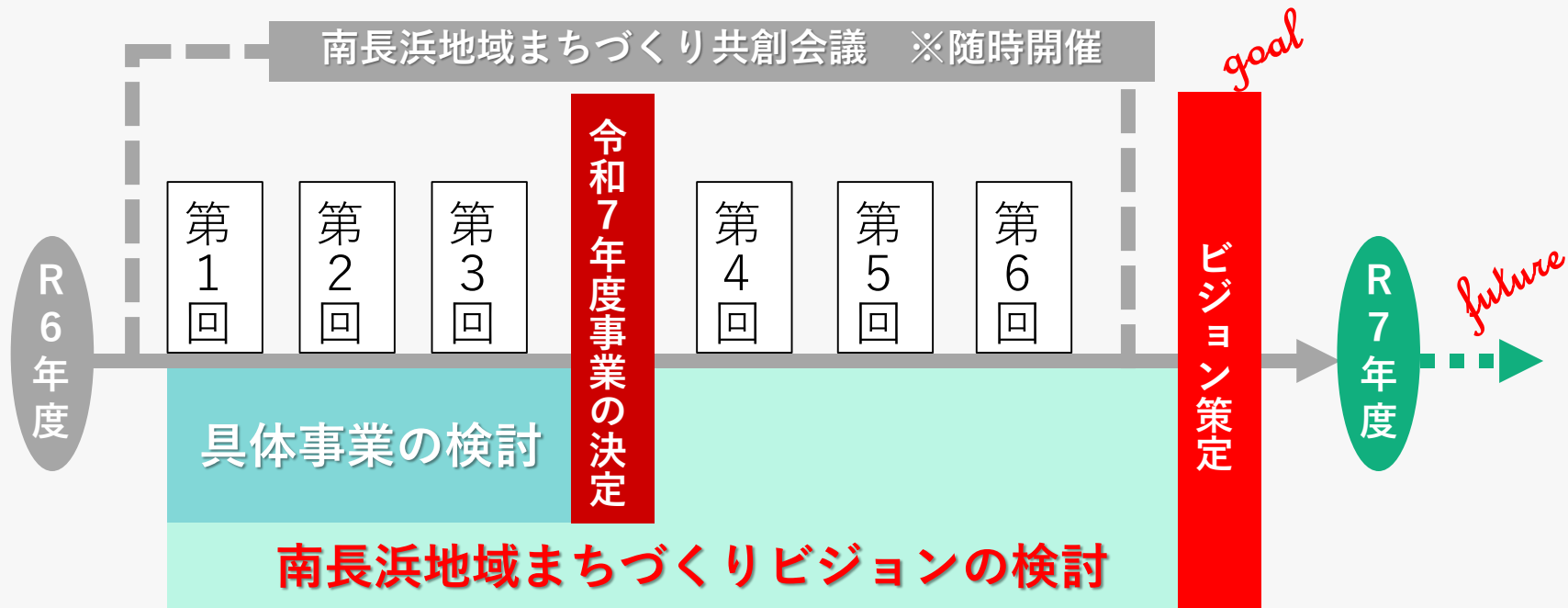
* 主な役割

- ・ 南長浜地域についての普及広報活動
- ・ コンセプトに合った事業提案

4. 検討会議の進め方

* 年間スケジュール

第1回	令和6年	6月25日(火)	10時半 - 12時
第2回	〃	7月19日(金)	14 - 17時
第3回	〃	8月19日(月)	17 - 20時
第4回	〃	9月17日(火)	14 - 20時の間で調整中
第5回	〃	11月19日(火)	10 - 13時
第6回	令和7年	1月14日(火)	16 - 19時



ビジョン策定

令和7年度事業の決定

STEP ①

まちづくり経緯・検討スキームの共有

today



準備：データ収集・整理・分析など



STEP ②

まちづくりロードマップの作成

具体事業の検討

STEP ③

エリア設定

STEP ④

エリアビジョン検討

STEP ⑤

ビジョン編纂



STEP ②：具体事業の検討

令和7年度に実施する事業



2050年までに取組むこと

- 3部会で検討（部会単位）をおこなう
 - コンセプトと整合性が取れるもの
 - 実験的な要素が大きく、実行性が高い
 - 1年でPDCAを回すことができる
 - ソフト寄り（ものによってはハードもOK）
-
- 3部会で検討（部会単位）をおこなう
 - 実行性よりもコンセプトや未来ペルソナ、未来エコシステムマップを意識したもの
 - ハード、ソフトどちらでもOK

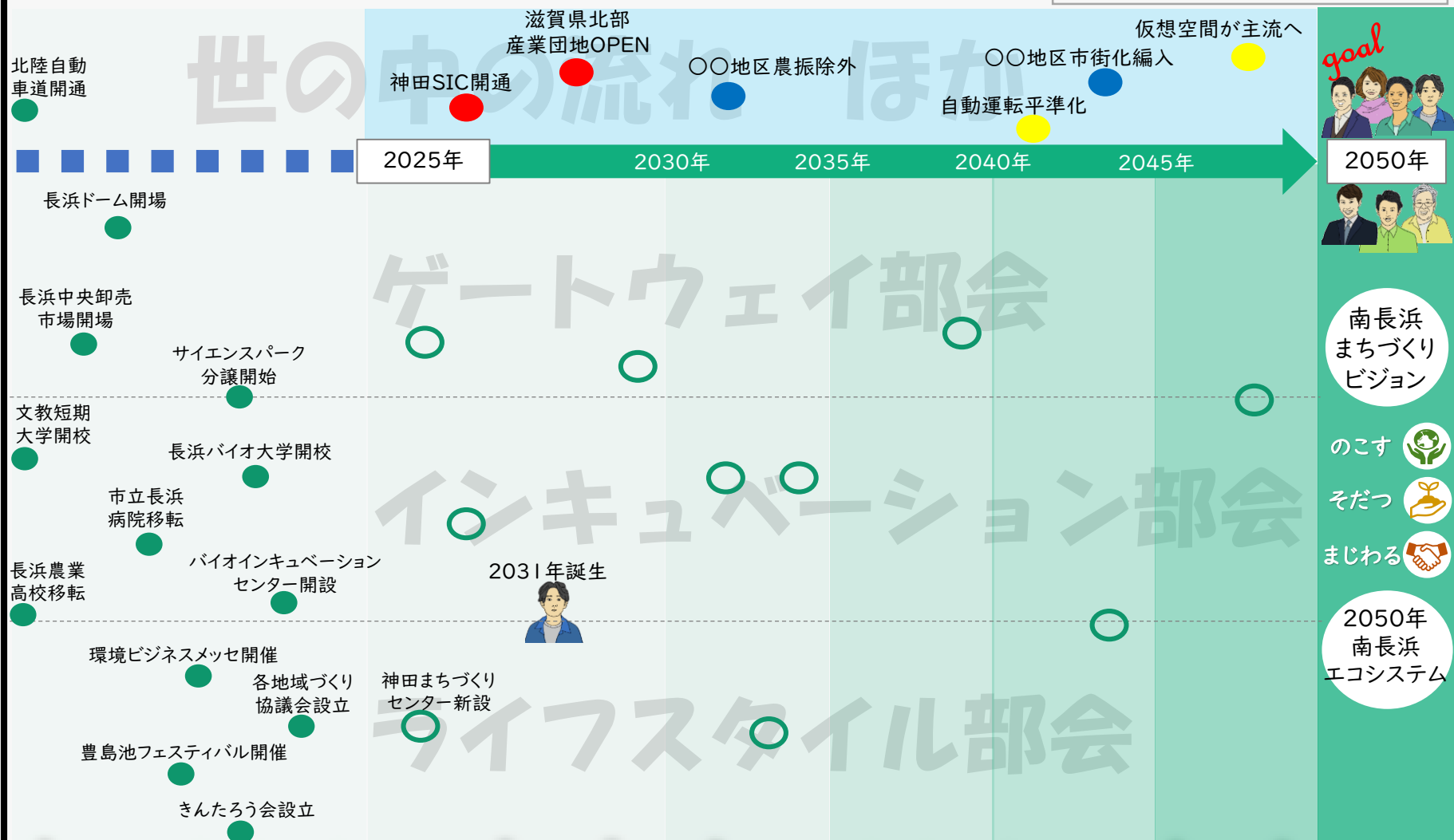


4. 検討会議の進め方



STEP ②：まちづくりロードマップの作成

- 行政のハード整備
- 予想される社会変革・未来資本実現
- 各取組みを実施する上で必要な規制解除
- 部会で検討する事業等



4. 検討会議の進め方

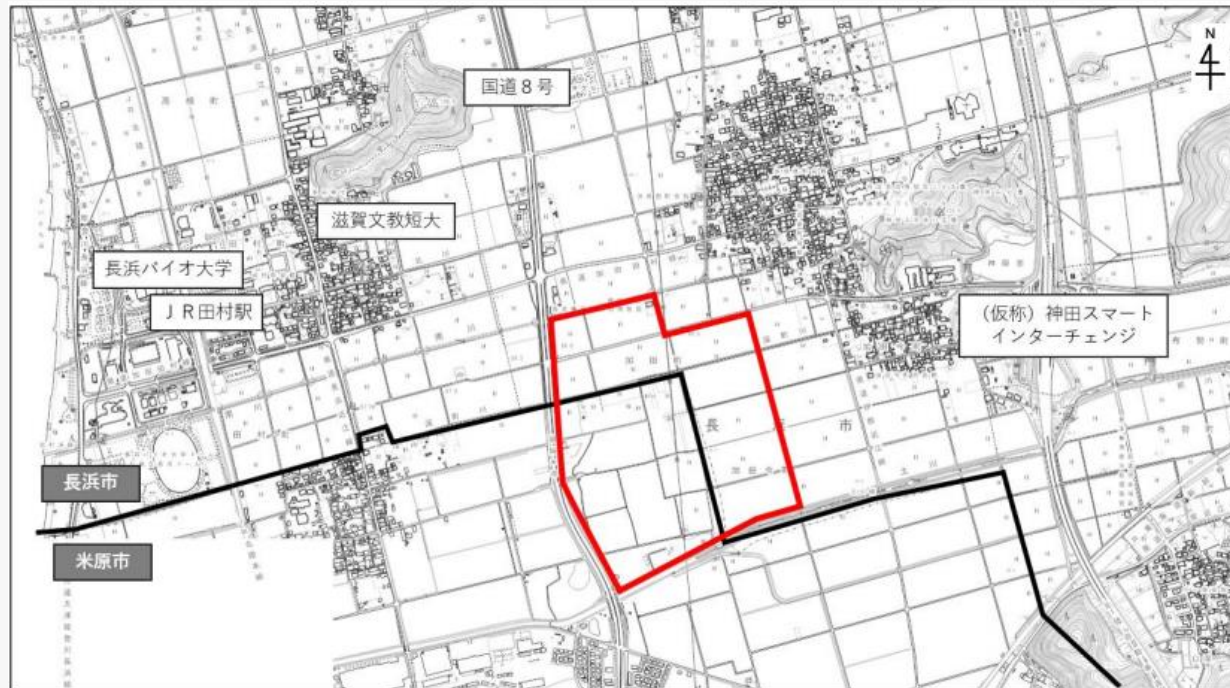
* 県と市町の連携による産業用地開発事業

企業の設備投資意欲の高まりを背景に、滋賀県は、産業立地戦略に基づき、県内北部地域（長浜・米原・高島）及びそれ以外の合計2か所で「県と市町の連携による産業用地開発事業」に取り組むとし、本年3月から候補地の募集を開始されました。

本市は、米原市と共同で下図の範囲を応募します。

場所：長浜市加田町及び加田今町地先（米原市長沢を含む）

面積：約35ha（長浜市 約18ha、米原市 約17ha）



県が重点的に立地を促進する産業分野

- ①医薬品・医療機器
- ②バイオ
- ③蓄電池
- ④電子部品・半導体
- ⑤新モビリティ
- ⑥情報通信業
- ⑦グリーン物流
- ⑧観光（宿泊施設に限る）

STEP ③：エリア想定



まちづくりロードマップから将来エリアを設定

4. 検討会議の進め方

STEP ④：エリアビジョンの検討

* エリアビジョンのイメージ

5-1 まちづくり方針

目指すまちの将来像を実現するため、まちとひとをつなげる都市デザインの考え方から、まちづくりの方針を「浦和のまちの魅力が成長する”リ・デザイン”」と「浦和のひとが成長し続ける”サステナブル・サイクル”」の2つに設定し、この方針を踏まえ、まちづくりの展開を図ります。

【方針1】浦和のまちの魅力が成長する”リ・デザイン”

世界に誇れる魅力の創出、まちのイメージ（風格）につながる浦和の顔の形成や、ライフスタイルに応じた生活圏と交通環境創造により、更に住みやすく災害に強いまちに向け、ヒューマンスケールなまちの拠点とネットワークの”リ・デザイン”に取り組み、全国に誇れる先進的なスマートシティを目指し進化していきます。

【方針2】浦和のひとが成長し続ける”サステナブル・サイクル”

更なる多様なつながりによって、浦和のひとたちが助け合い、学び合い、自己実現できる環境の創出を目指します。
人生100年時代に、3世代が暮らし続けられる生活環境の構築やライフステージにあわせた地域内住み替えて住み続けられる居住環境を目指すなど、デジタルツインを活用し、サステナブル・サイクルにより進化させていきます。

5-2 まちづくりの展開

まちづくりの各展開は、浦和の地域資源を生かしながら、時代の変化へ対応できるよう、市民協働・公民連携で検討、推進していきます。

また、将来にわたって持続的な成長を維持していくためには、限りある経営資源を選択と集中の視点で重点配分していく必要があることから、「フォアキャスト」と「バックキャスト」の両輪によるハイブリットの考え方から、まちづくりの段階に応じた「選択」と「集中」のまちづくりに取り組みます。

【展開1】浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出

【展開2】県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築

【展開3】浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成

【展開4】誰もが快適に移動できるネットワークの強化

【その他の展開】まちの環境の最適化

【展開1】浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し、楽しめる場の創出



【展開3】浦和らしい多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成



【展開2】県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築



【展開4】誰もが快適に移動できるネットワークの強化



参照元：浦和駅周辺まちづくりビジョン ～概要版～

<https://www.city.saitama.lg.jp/001/010/015/015/001/index.html>

STEP ⑤：ビジョン編纂

＊（仮称）南長浜地域まちづくりビジョン



想定アジェンダ

lll

ごあいさつ

- ・ 浅見宣義市長挨拶

1. ビジョンについて

- a. ビジョン策定の背景・目的
- b. ビジョンの目標年次
- c. ビジョンの位置付け
- d. ビジョンの対象範囲
- e. ビジョンの構成

2. 南長浜地域の果たすべき役割

- a. 南長浜地域の位置付け・役割
- b. マクロ・ミクロの視点

3. 南長浜地域のすがた

- a. まちの歴史
- b. まちの特長
- c. 地域の声・思い

4. 南長浜地域のまちの将来像

- a. 基本理念
- b. まちづくりコンセプト
- c. 未来の人たち・生活のすがた
- d. 未来エコシステムマップ

5. まちづくりの展開

- a. まちづくり方針
- b. まちづくりの展開
- c. ロードマップfor2050

6. まちの将来像の実現に向けて

- a. アクションプラン（仮）

7. 資料編

- a. 参考資料
- b. 策定経過

5. その他

* 南ながはま共創パートナー企業の募集について



*第2回検討会議について

日時 令和6年7月19日(金)14-17時

場所 調整中(改めてメールいたします。)

- 内容
1. [部会] 事業検討ワークショップ
令和7年度事業 / 2050年までの事業
 2. [全体] 発表、取りまとめ

